

松山市埋蔵文化財調査年報 VII

平成 6 年度

1995

松山市教育委員会
(財)松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

松山市埋蔵文化財調査年報 VII

平成 6 年度

1995

松山市教育委員会
(財)松山市生涯学習振興財團
埋蔵文化財センター



卷頭図版 I 横穴式石室と木棺（古墳時代後期 葉佐池古墳）



卷頭図版 2 横穴式石室（古墳時代後期 大峰ヶ台遺跡 9次調査地）



卷頭図版 3 破鏡（弥生時代末 束本遺跡 4 次調査地）



卷頭図版 4 203号住居「周堤帯」(弥生時代末 束本遺跡 4次調査地)



卷頭図版 5 アカホヤ・A T 火山灰層（東本遺跡 4 次調査地）

序

松山市には数多くの貴重な埋蔵文化財があります。本市の発展に伴う開発事業の波は衰えることなく年々増加の傾向にあり、それら諸開発によって失われる遺跡については、記録保存するように事前の発掘調査に努めております。

本書は平成6年度に松山市域において民間開発・公共事業を対象として実施した発掘調査の概要報告と松山市考古館が同年度内に行った教育普及活動の概要をまとめた年次報告です。

本年度も弥生時代から江戸時代にわたる数多くの遺構・遺物が発見されました。特に、東本遺跡4次調査地では全国的にも検出例の非常に少ない堅穴住居に伴う周堤帯、他の住居内からは破鏡が出土するなど弥生時代末の集落形態や住居構造解明に多大な成果をあげました。また、葉佐池古墳では石室内に木棺が残るなど埋葬時の姿を残すものとして、その調査が全国的にも注目されました。その他10数カ所の調査地においても新しい発見や貴重な資料を得ることができました。

これもひとえに、関係各位のひとかたならぬご協力とご理解のたまものであり、厚くお礼申し上げますとともに、今後ともなお一層のご協力をお願い申し上げます。

本書が、松山市民をはじめ一人でも多くの方々に、埋蔵文化財に対する知識の向上と調査研究のための資料としてご活用いただければ幸いです。

平成7年9月30日

財団法人 松山市生涯学習振興財團

理事長 田中誠一

例　　言

1. 本書は、財團法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが平成6年4月1日から平成7年3月31日までに実施した主な発掘調査の概要を収録し、また松山市考古館事業を含めた啓蒙普及事業等をまとめた年次報告である。
2. 確認調査及び本格調査については、本書末尾の一覧表・付図にまとめた。
3. 写真は、巻頭図版1を牛嶋茂（奈良国立文化財研究所）が、その他の遺物写真及び発掘調査の遺構写真は大西朋子と各調査担当者が撮影した。
4. 各調査の報告は、調査担当者が執筆することを原則とした。なお、編集及び調整は田城武志・相原浩二が行った。
5. 遺構のうち表示記号で示したものは、以下のとおりである。
S A : 棚列、 S B : 建物・住居、 S K : 土坑、 S D : 溝、 S R : 自然流路、
S P : 杖穴、 S E : 井戸、 S X : その他の遺構

6. 調査組織は、次のとおりである。

調査刊行主体（平成7年7月30日現在）

松山市教育委員会 教育長 池田 尚郷
生涯教育部 部長 渡辺 和彦
次長 杉本 博
次長 三好 俊彦
文化教育課 課長 松平 泰定

(財)松山市生涯学習振興財團 理事長 田中 誠一
事務局長 一色 正士
埋蔵文化財センター 所長 河口 雄三
主幹 山内 仁
次長 田所 延行
調査係長 田城 武志
調査主任 栗田 正芳（文化教育課職員）
調査員 栗田茂敏・梅木謙一・宮内慎一・高尾和長
相原浩二・橋本雄一・河野史知・相原秀仁
山本健一・武正良浩・加島次郎・水本完児
大森一成・小笠原善治・大西朋子・小玉亞紀子
松山市考古館 館長 渡部 秦
学芸係長 徳永 幸紀
学芸員 山之内志郎

7. 整理作業等の協力者は、次のとおりである。（敬称略）

山邊進也・志賀夏行・田丸竜馬・波多野恭久・藤崎正記・八木幸徳・酒井直哉・白石公信・小野敬通・黒木修二・水口あをい・岡根なおみ・丹生谷道代・新出舟美子・石丸由利子・松下郁子・小田裕美・定成登志子・金子育代・仙波千秋・仙波ミリ子・宮田早美・高尾久子・岡市美紀・關正子・多知川富美子・萩野ちよみ・矢野久子・吉井信枝・室谷美也子・石井美鈴・山内七重・徳田弘子・西川千秋・松本美代子・渡部英子・青野茂子・森田利恵・松本美知子・黒田令子・上西真弓・中村紫・岡本邦栄・猪野美喜子・生鷹千代・山下満佐子・平岡直美・松山桂子・田崎真理・大西陽子・兵頭千恵・好光明日香・村上規子・宗岡直美・伊藤みわこ・竹内真琴・中平久美子・長岡千尋・松岡裕子 ほか

8. ご指導・ご協力をいただいた先生方は、次のとおりである。（敬称略）

上原真人（奈良国立文化財研究所）／猪熊兼勝（同研究所）／沢田正昭（同研究所）／山中敏史（同研究所）／松井章（同研究所）／松本修自（東京国立文化財研究所）／前園美知雄（橿原考古学研究所）／石野博信（徳島文理大学教授）／下條信行（愛媛大学教授）／松原弘宣（同教授）／長洋一（西南学院大学教授）／田中良之（九州大学教授）／日野尚志（佐賀大学教授）／佐藤昌憲（京都工芸繊維大学教授）／平井幸弘（愛媛大学助教授）／田崎博之（同助教授）／村上恭通（同助教授）／宮本・大（九州大学助教授）／内田俊秀（京都造形大学助教授）／亀田修一（岡山理科大学助教授）

9. ご指導・ご協力をいただいた機関は、次のとおりである。

奈良国立文化財研究所／（株）古環境研究所／（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター／奈良県立橿原考古学研究所 ほか

本文目次

松山市埋蔵文化財調査概要

太山寺経田遺跡 - 2 次調査地 -	1
姫原遺跡 -	5
大峰ヶ台遺跡 - 9 次調査地 (1 区) -	9
占照遺跡 - 11 次調査地 -	11
枝松遺跡 - 4 次調査地 -	15
東本遺跡 - 4 次調査地 -	19
枝松遺跡 - 5 次調査地 -	27
経石山古墳 - 2 次調査地 -	31
筋違 J 遺跡 -	35
南久米斎院遺跡 - 2 次調査地 -	39
鷹子新畑遺跡 - 2 次調査地 -	43
久米高畑遺跡 - 23 次調査地 -	47
来住庵寺 - 23 次調査地 -	51
来住庵寺 - 24 次調査地 -	57
来住町遺跡 - 5 次調査地 -	63
北梅本恵社谷遺跡 -	67
葉佐池古墳 -	71

松山市埋蔵文化財調査関係資料

平成 6 年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧	75
平成 6 年度 松山市埋蔵文化財本格調査一覧	83
平成 6 年度 啓蒙普及事業	88
1. 展示活動 2. 教育普及活動 3. 広報・出版活動 4. 収集・保管活動 5. 施設の利用 6. 資料の貸出 7. 職員研修・会議など	

挿図・写真目次

- 卷頭図版 1 横穴式石室と木棺（古墳時代後期 萩佐池古墳）
卷頭図版 2 横穴式石室（古墳時代後期 大峰ヶ台遺跡 9次調査地）
卷頭図版 3 破 鏡（弥生時代末 東本遺跡 4次調査地）
卷頭図版 4 203号住居「周堤帯」（弥生時代末 東本遺跡 4次調査地）
卷頭図版 5 アカホヤ・A T火山灰層（東本遺跡 4次調査地）

太山寺経田遺跡—2次調査地—

- 図1 調査地位置図／図2 調査地測量図・トレンチ位置図／図3 A区集石平・断面図、東壁土層図
写真1 A区礫石検出状況（北より）／写真2 A区完掘状況

姫原遺跡

- 図1 調査地位置図／図2 基本層序図／図3 遺構配置図／図4 出土遺物実測図
写真1 完掘状況（南より）

大峰ヶ台遺跡—9次調査地—

- 図1 調査地位置図
写真1 1号墳完掘状況／写真2 1号石室完掘状況（北より）

古照遺跡—11次調査地—

- 図1 調査地位置図／図2 基本層序図／図3 遺構配置図／図4 出土遺物実測図
写真1 第VII・VIII層完掘状況（南より）／写真2 SK1遺物出土状況（北より）

枝松遺跡—4次調査地—

- 図1 調査地位置図／図2 基本層位図／図3 遺構配置図／図4 SB1測量図／図5 SK1出土遺物実測図
写真1 南区調査地全景／写真2 北区調査地全景

東本遺跡—4次調査地—

- 図1 調査地位置図／図2 基本層位図／図3 遺構配置図／図4 SB203測量図／図5 302測量図／図6 SB502測量図
写真1 西壁土層／写真2 2区完掘状況（南より）／写真3 SB302完掘状況（東より）／写真4 SB502完掘状況（北より）

枝松遺跡—5次調査地—

図1 調査地位置図／図2 基本層位図／図3 遺構配置図／図4 出土遺物実測図
写真1 A区完掘状況（北より）／写真2 B区完掘状況（南より）／写真3 C区完掘状況（南より）

経石山古墳—2次調査地—

図1 調査地位置図／図2 遺構配置図／図3 出土遺物実測図
写真1 完掘状況（北東より）

筋道J遺跡

図1 調査地位置図／図2 遺構配置図
写真1 遺構検出状況（南より）／写真2 SK23落ち込み石検出状況（東より）／写真3 SK24木棺痕跡（東より）

南久米斎院遺跡—2次調査地—

図1 調査地位置図／図2 遺構配置図／図3 出土遺物実測図
写真1 完掘状況（西より）／写真2 SB1（西より）

鷹子新畑遺跡—3次調査地—

図1 調査地位置図／図2 遺構配置図／図3 出土遺物実測図
写真1 完掘状況（北東より）／写真2 SE1ベルト土層（東より）

久米高畑遺跡—23次調査地—

図1 調査地位置図／図2 遺構配置図／図3 SD001出土遺物実測図／
写真1 大溝：SD001完掘状況（北より）／写真2 大溝上層堆積状況（南より）

来住庵寺—23次調査地—

図1 調査地位置図／図2 遺構配置図／図3 調査区位置図／図4 出土遺物実測図
写真1 完掘状況（南より）／写真2 回廊北部土層断面（北西より）／写真3 調査地遠景（北西より）

来住庵寺—24次調査地—

図1 調査地位置図／図2 遺構配置図／図3 調査区位置図／図4 出土遺物実測図
写真1 完掘状況（南より）／写真2 SK010～013瓦片出土状況（北東より）／写真3 SK001木棺・人骨検出状況（南より）／写真4 井戸001完掘状況（東より）

来住町遺跡－5次調査地－

図1 調査地位置図／図2 遺構配置図／図3 北壁東部土層図／図4 出土遺物尖削図

写真1 挖立001からS R001（西より）

北梅本悪社谷遺跡

図1 調査地位置図／図2 調査地測量図・トレーナー位置図／T10平・断面図

写真1 調査地遠景（北より）／写真2 T10土層（北より）

葉佐池古墳

図1 調査地位置図／図2 木棺と遺物の配置

写真1 奥壁部の供獻土器（西より）／写真2 A木棺奥側の小口板（東より）

啓蒙普及事業

写真1 発掘速報展「むかし・昔のまつやまを振る」／写真2 開館5周年記念講演会／写真3

特別展記念シンポジウム／写真4 夏休み体験学習セミナー「土器を作ろう！土器を描こう！」

（土器製作）／写真5 同左（土器焼成）

タイサンジキョウデン 太山寺経田遺跡 2次調査地

所在地 松山市太山寺町乙677-1
期間 平成6年9月5日～
同年12月26日
面積 2,190m²
担当 田城武志・山本健一



図1 調査地位位置図

経過 本調査地は、松山市太山寺町乙677-1ほかにおける松山市農林土木課による農道新設工事に先立って実施した事前調査である。調査地は、松山平野北西部太山寺丘陵の東側、標高29m～44mの緩斜面上に立地する。この太山寺丘陵上には、高月山古墳群、勝岡古墳群、太山寺古墳群、鶴ヶ峰古墳群、船ヶ谷古墳群、東山町古墳群等の古墳が多く所在する地域で、今までに高月山古墳、船ヶ谷向山古墳、船ヶ谷三ツ石古墳、鶴ヶ峰古墳などが調査されている。これらのことにより、古墳の確認を主目的として調査を行った。

遺構・遺物 調査地は、現在果樹園として利用されている丘陵地で、大小3本の尾根とこれら尾根に挟まれた谷間部によって形成されている。調査に当たっては、それぞれの地形を考慮しながらトレンド（T）を設定し確認を行った。調査の結果、T1・T16・T17では遺物包含層、T9・T10では集石状遺構、T23では溝状遺構を検出した。これにより、T9・T10地点をA地区、T16・T17地点をB地区、T23地点をC地区と区画し拡張調査を行った。

A区は、調査地南部の既存農道西隣の斜面に位置する。調査区の層位は第1層耕作土（基本層位第I層）、第2層淡灰黄色砂質土（基本層位第II層）、第3層赤褐色土（礫多含）、第4層茶褐色砂粒岩層（基本層位第IV層）である。集石状遺構は第3層中にて検出した。集石は、東下がりに傾斜して堆積しており、平面形状は東西・北部分が調査区外に延びており、詳細は不明であるが、南北6m、東西6.5m、厚さ15～55cmを確認した。主に15～30cmの角礫が集まつたもので、中には60cm大の大きさのものもある。礫石には意識的に構築された様子は今回の調査では確認されなかったが、礫石の間に縦文土器片を出土している。また、これら集石下の第4層上面においても遺構・遺物とともに検出されなかった。

C区は、調査地北端部の東方向へ延びる尾根上の傾斜変換点部分に位置する。検出遺構は土坑2基（弥生時代）、溝3条（弥生時代・近現代）である。検出した土坑のうち、SK2の平面は楕円形を呈し、断面は袋状を呈する。径1.5～1.8m、深さ1mを測る。埋土は5層に細分される。遺物は上位1・2層より弥生土器・炭化物・1～2cm大の河原石が、下位の3・4・5層より弥生土器・サヌカイト片が出土した。弥生土器は前期の菱形土器である。

小結 集石遺構については、平面形は角礫によってほぼ半円形に形造られていた。集石西部は、調査区外へと延びているため、全容は不明であるが、集石中央部に盛り上がりを持ち、角礫が密集していた。集石出土地より西方約10m上部には古墳と思われる丘陵地があり、これら古墳との関連性の有無、或いはそれ以前の祭祀にまつわる遺構なのか、以後の調査の課題となった。

太山寺経田遺跡 2次調査地

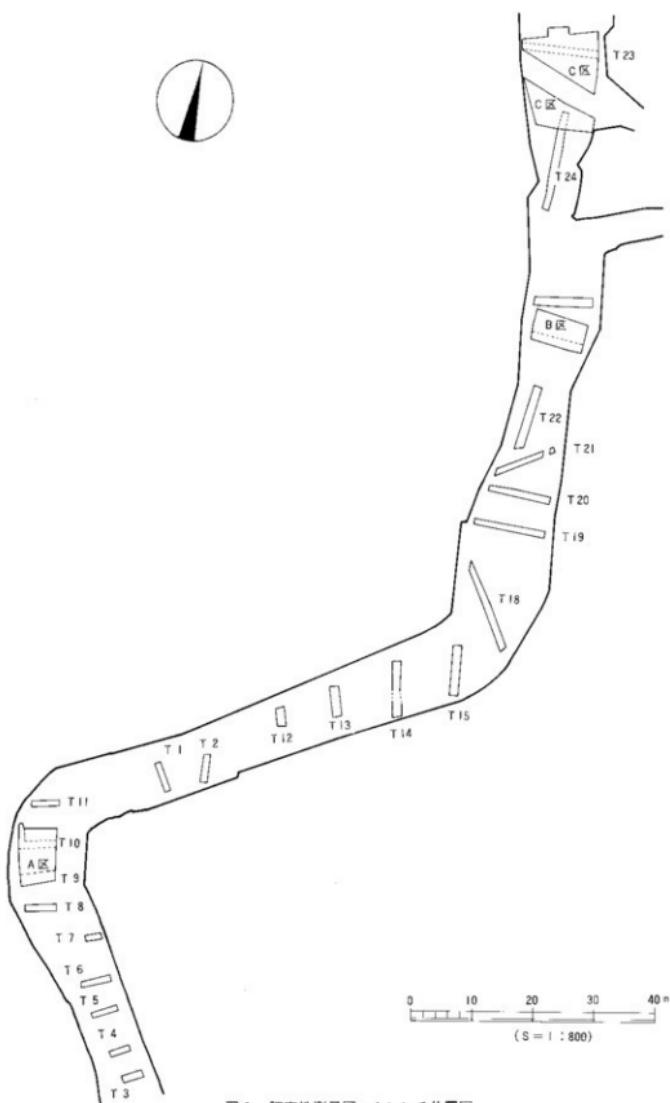


図2 調査地測量図・トレンチ位置図

太山寺経田遺跡 2 次調査地



図3 A区集石平・断面図 東壁土層図

太山寺経田遺跡 2次調査地



写真1 A区礫石検出状況（北より）



写真2 A区発掘状況（北より）

ヒメ バラ 姫原 遺跡

所在地 松山市姫原2丁目甲274-1, -2,
甲276-1
期間 平成7年1月5日～
同年2月27日
面積 1,683m²
担当 相原浩二・河野史知



図1 調査地位置図

経過 本調査は、「No. 168 姫原遺物包含地」内における宅地造成に伴う事前調査である。平成7年10月27日試掘調査を実施し、溝状遺構、土坑、弥生土器、須恵器、土師器、獸骨、陶磁器等、弥生時代から中世にかけての遺構や遺物及び包含層を確認した。そのため、当該地における遺跡の取り扱いについて文化教育課と地権者は協議を行い、宅地開発によって失われる遺構について、記録保存のために発掘調査を実施することとなった。

調査地は御幸寺山麓北西裾部の標高22mに立地し、すぐ西には堀江地溝帶の低地が南北に長くのびている。周辺の遺跡には、弥生時代前期末の貯蔵穴や炭化米が出土した吉藤宮ノ谷遺跡や、影浦古墳など、丘陵部の調査例はあるが、姫原地区の低地部及び、低地部東方の河岸段丘上での調査例がなく、集落址などの様相が不明な地域と言える。

遺構・遺物 基本層位は、第I層耕作土、第II層床土、第III層灰白色砂質土、第IV層茶灰色土、第V層黒褐色土、第VI層黄褐色土、第VII層灰褐色土、第VIII層茶褐色土、第IX層明茶褐色土、第X層青黄色土（地山）等20数層に分層できる。基本層位の第III層から第IX層は遺物包含層であり、層厚60cm～90cmを測る。土層観察により各包含層中には遺構の存在が確認されるものである。これ等のことにより各層は出土遺物・検出遺構から判断すると、第III、IV層は中世、第V、VI、VII層は古墳時代後期～古代、第VIII、IX層は弥生時代までに堆積したものと判断される。また、調査地

の北東地点と北西地点の第X層（地山）上面の標高を比べると北東部が30cm高く、東から西へ緩傾斜している。当初、各包含層上での遺構検出を試みたが、包含層と遺構埋土色が類似し、そのうえ湧水が多く平面的に遺構のプランを確認することができなかった。このため遺構検出は、第X層の地表面を遺構確認面とし調査を行った。

今回の調査によって確認された遺構は、弥生時代～中世を含め、直線的にのびる溝状遺構33条、円形を呈する周

L = 22.30 m

I	I 耕作土
II	II 床土
III	III 灰白色砂質土
IV	IV 茶灰色土
V	V 黑褐色土
VI	VI 黄褐色土
VII	VII 灰褐色土
VIII	VIII 茶褐色土
IX	IX 明茶褐色土
X	X 青黄色土(地山).

図2 基本層位図 (S = 1 : 20)

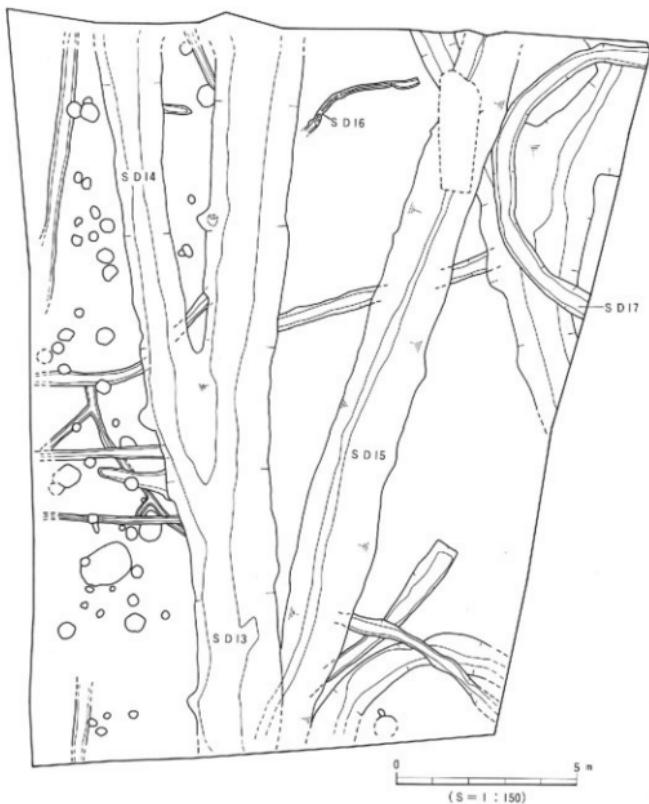


図3 造構配置図

溝状造構2基、土坑11基、柱穴48基を検出し、このうち注目されるのは弥生時代後期後半の土器が集中して出土した周溝SD17、馬骨とおもわれる骨が出土した古墳時代後期の溝SD15、中世の溝であるSD13、SD14などがある。遺物は弥生時代中期～後期の土器、石鍤、古墳時代後期の土師器、須恵器、管玉、獸骨、石器、中世の土師器、須恵器、瓦器、輸入陶磁器などが出土している。

小結 今回の調査で検出した、弥生時代、古墳時代、中世の溝内からは比較的多くの遺物が出土している。このことは調査で検出した柱穴を含め、調査地周辺に各期の集落の存在を示唆するものであり、姫原地区の様相の一端が明らかになったものと言える。

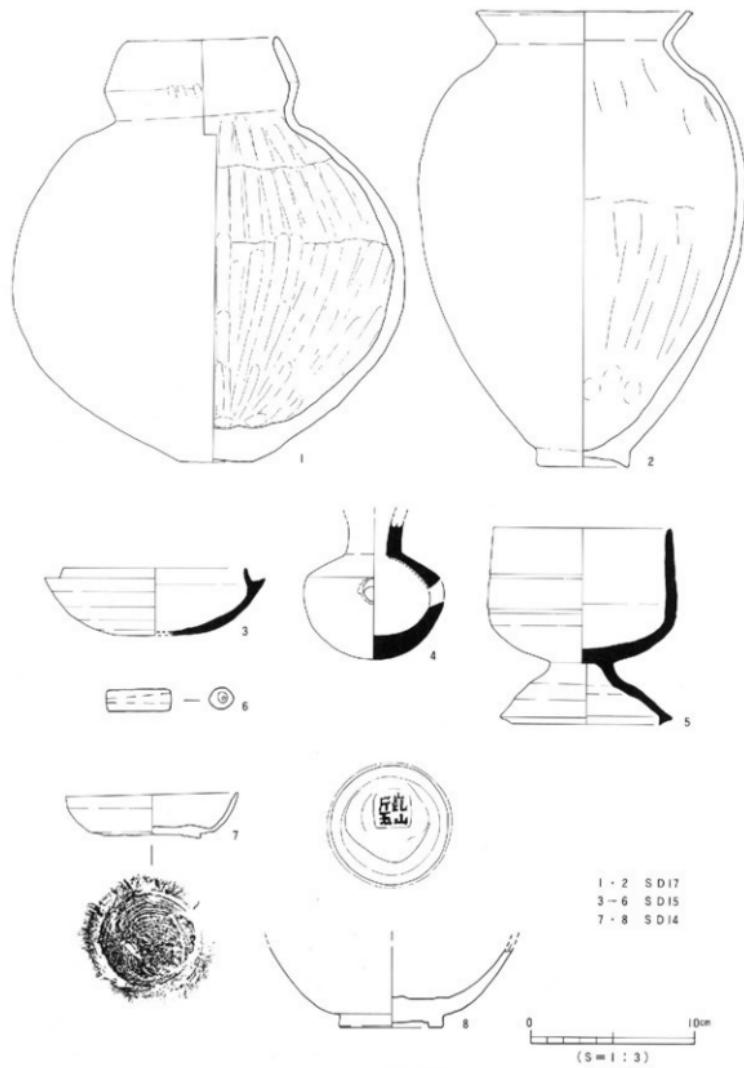


図4 出土遺物実測図

姫原遺跡



写真1 完掘状況（南より）

オオミネガダイ 大峰ヶ台遺跡 9次調査地(1区)

所在地 松山市南江戸町
期間 平成6年7月1日～
平成7年3月31日
面積 4,370m²
担当 梅木謙一・宮内慎一
高尾和長・木本完児



図1 調査地位図

経過 大峰ヶ台丘陵は松山平野西部に聳える標高133mの独立丘陵である。同丘陵は松山市の指定する埋蔵文化財包含地の『32・33 大峰ヶ台弥生遺跡・大峰ヶ台古墳群』にある。近年、同丘陵の主陵を拠点として松山市総合公園整備が行われ、これに伴い松山市教育委員会・埋蔵文化財センターは分布調査、確認調査、及び発掘調査を実施した。丘陵頂上部では弥生時代中期の高地性集落を検出しているほか、北部の分岐丘陵上には朝日谷1号墳（古墳後期）、朝日谷2号墳（古墳前期）が、南部の分岐丘陵には7世紀前半の群集墳である客谷古墳群などが確認されている。

遺構・遺物 本調査地は大峰ヶ台丘陵西裾の丘陵斜面に立地する。調査に先立ち、地中レーダー探査を行い調査地南端の小丘陵に古墳の存在を確認した。本古墳は字名より「大池東1号墳」と呼称する。

大池東1号墳は大峰ヶ台丘陵の西側斜面と谷部が接する標高27mの地点に立地する。南北方向に開口する横穴式石室を有する円墳である。墳丘は南側を黒色腐植土、北側は地山に盛土して構築されている。石室掘り方はこの腐植土と地山整形面から掘削されている。周溝は墳丘北半部に検出され、ほぼ格円形を呈している。内部主体は両袖式の横穴式石室である。玄室は奥壁側で幅186cm、渓門側で172cmを測り、長さは左側壁が485cm、右側壁で460cmを測る。奥壁には高さ2.3m、幅1mの大石と、高さ1.6m、幅60cmの石を据えている。側壁には大振りの腰石を据え、6～7段の積み石が残っている。玄室床面には円理と角理が上下に敷かれていた。天井石は削平されている。渓門は左側を30cm前後、右側を40cm前後突出させ、幅110cm前後の渓門を形成している。渓門の立石は高さ120cmを測る。渓門の右側立石の面に据えて仕切り石が設けられている。腰道は両側壁共に長さ3mを測る。左右共に5段前後が残存している。腰石には比較的大きな石を用いており、浅い振り方に設置されている。腰道床面は貼り床がなされ、貼り床上面に排水溝が検出された。墓道は腰道部の延長に1mほど残存している。大小2本の墓道を検出した。幅2m前後のものと60cm前後のもので、いずれも断面形は浅い「U」字状を呈する。閉塞は仕切り石の腰道部の端から壠までの間を石と土を用いて構築されていた。

遺物は玄室内からは須恵器（蓋環9点、高环3点、短頸壺1点、長頸壺2点）、土師器1点、鉄器1点、装飾品（耳環11点、玉26点）他が出土している。

小結 本調査では比較的の遺存状況の良好な横穴式石室を検出した。石室内からは7世紀第1四半期から第2四半期に比定される遺物が出土している。規模的にみると大峰ヶ台丘陵においてこれまでに検出された同時期と思われる石室の中では最も大型のものである。特に奥壁に大型の石を据えて構築していることや、側壁にも比較的大きな石を使用している点は注目されるところである。また、腰道部で検出された排水施設は松山平野においてはあまり検出例がなく貴重な資料となるものである。



写真1　I号填塗状況（南より）



写真2　I号石室状況（北より）

コ デラ 古照遺跡11次調査地

所在地 松山市南江戸4丁目1-1
 期間 平成6年9月1日～
 同年11月22
 面積 750m²
 担当 相原浩二・河野史知



図1 調査位置図

経過 本調査は、松山市下水道建設第3課による下水道中央浄化センター内における下水処理施設建設に伴う事前調査である。平成6年8月に試掘調査を実施し、その結果、中世から近世にかけての遺物包含層や水田跡を検出したため、東側に隣接する7次調査A地区との遺構のつながりを解明することを主目的に調査をおこなった。

当該地は、石手川等によって形成された沖積平野の標高12.60～12.80mに立地する。過去の調査によって古墳時代前期の農業灌漑用土木施設の井堰を取り巻く古環境や中世の生産・集落址の存在が確認されている。特に東隣には、中世段階の農耕遺構や墓域を検出した7次調査A地区が位置する。遺構・遺物 調査地の基本層位は、第I層現代造成土、第II層旧耕作土、第III層オリーブ灰色(a)～暗緑色砂質土(b)、第IV層灰色シルト(a)～緑灰色砂質土(c)で調査区南東部において堆積がみられる。

第V層は灰白色細砂の堆積層で、調査区北東部にやや厚く堆積している。第VI層は緑灰色シルトで、上面において飼跡状遺構を検出している。第VI層と第VII層の間に壁面では検出されてないが調査区南東部において第VII層の暗青灰色砂質土の堆積がみられ、上面において掘立柱建物、棚列状遺構、土坑、柱穴状遺構を検出している。第VIII層の青灰色シルト上面において足跡状遺構を検出した。

第VI層上面検出遺構は、南北方向の飼跡状遺構と考えられる小溝群とそれに伴う足跡状遺構を検出、また、飼跡状遺構に並行に幅約1mの大畦畔遺構とも考えられる溝、牛の足跡に混じり人の足跡が見られる。遺物は偏前焼の擂鉢、土鍋の脚部、土器片が出土している。

第VII層上面検出遺構は、調査区南半分において掘立柱建物跡3棟、棚列状遺構2基、土坑状遺構2基、柱穴状遺構9基を検出した。

土坑状遺構（SK1）は調査区南寄りにて検出した。平面形は橢円形で掘り方は浅く、主軸はほぼ東西を呈する。遺構上面の西半分に土師皿が11枚不規則に置かれた状態で出土しており、土師皿の底面に銅錢が1枚づつ載せてある。東側の1枚の皿だけ銅錢が出土しなかったが、底面に銅錢の痕跡が残っていることより、土師皿11枚全てに銅錢の共伴が考え

13.00m

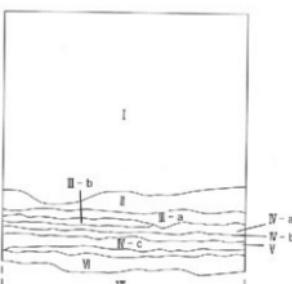


図2 基本層位図 (S = 1/40)

古照遺跡11次調査地

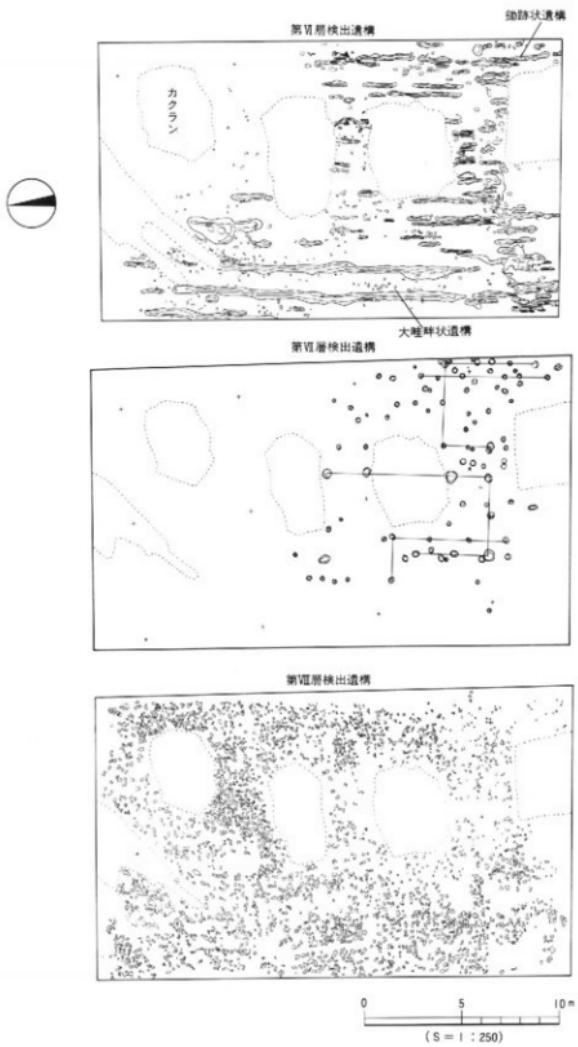


図3 遺構配置図

られる。中には炭化した板鏡の上に古銭を載せているものも残存する。土師皿と共に伴した銅鏡は北宋銭4種4枚、明銭2種5枚、不明銭1枚の計10枚が出土し、祭祀遺構と考えられる。

第VII層上面検出遺構は、調査区全域にわたって人・家畜の足跡を多数検出した。また、調査区全体においても砂が堆積していることから、洪水により埋没したと考えられる。

出土遺物は土師器碗、土師器杯、土師質土鍋・土釜、東播系こね鉢、青磁碗などが上面より出土している。

小結 本調査において、中世段階の遺構面を3面検出した。第VII層上面は調査区全域に広がる多数の人・家畜の足跡より、水田が営まれており、遺物・層位からみて東隣する7次調査A地区で検出した13C代の埋没水田の広がりが推測される。第VII層上面は検出された掘立柱建物跡などから調査区の南半分を生活域と推測でき、7次調査A地区検出の墓原との関連が推測される15C後半から16C後半にかけての生活域である。今回検出された祭祀遺構については掘立柱建物に関連した地鎮にまつわる遺構が考えられる。第VI層上面からは16C代の鐵跡状遺構が検出され、当地域においての鎌倉～室町時代にかけての生活・生産遺構が検出された。特に祭祀遺構については松山平野では貴重な資料の出現である。

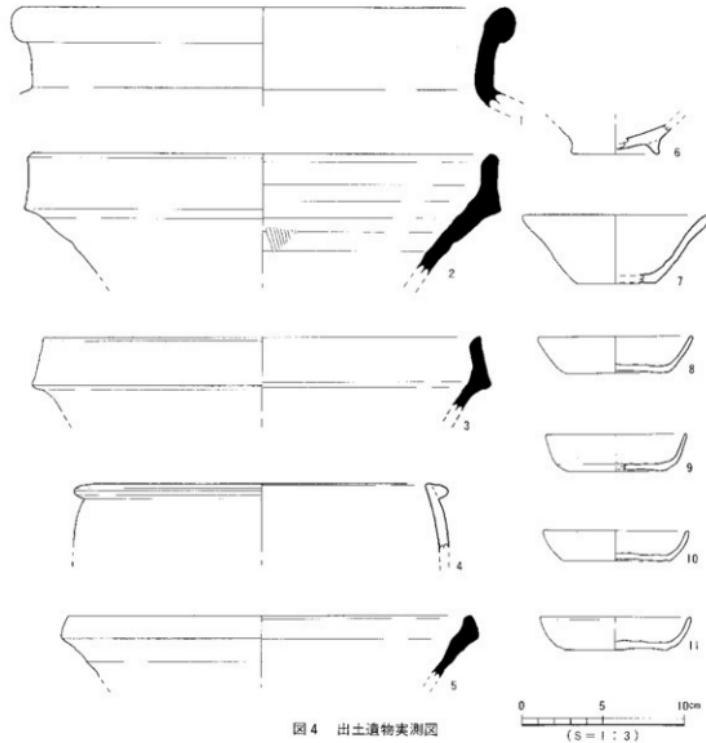


図4 出土遺物実測図

古窯遺跡11次調査地



写真1 第VII・VIII層発掘状況（南より）

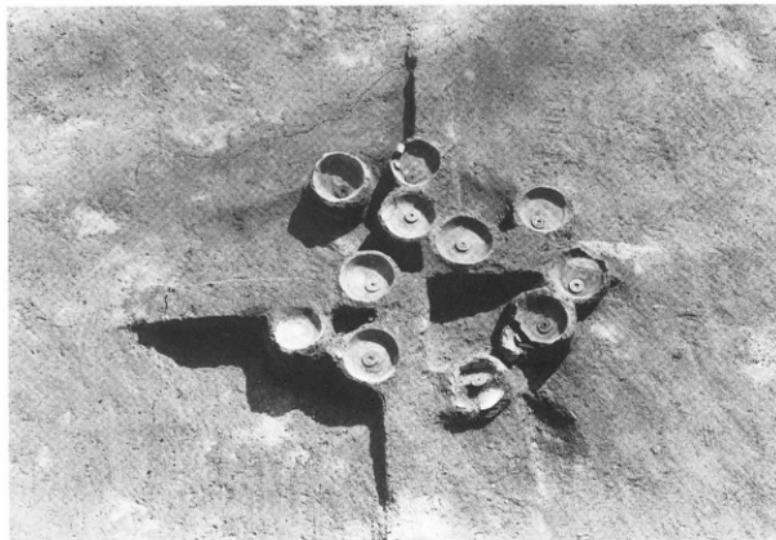


写真2 SKI遺物出土状況（北より）

エダマツ 枝松遺跡 4次調査地

所在地 松山市東本1丁目外

期間 平成5年10月1日～
同年11月30日

面積 5,600m²

担当 梅木謙一・宮内慎一
山本健一・大森一成

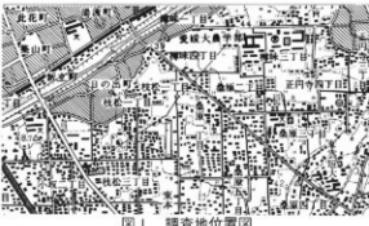


図1 調査位置図

経過 本調査は枝松遺物包含地内における道路整備事業に伴う事前調査である。平成5年6月に試掘調査を実施した。その結果、数条の溝やピットのほか弥生土器・須恵器・土師器などを検出した。調査地は石手川中流域南岸の層状地上、標高36mに立地する。周辺では柿味遺跡（愛媛大学農学部）や柿味立派遺跡、枝松遺跡（1～3次）など数多くの調査が行われ、弥生時代から中世に至る遺構・遺物の存在が近年明らかになっている。

遺構・遺物 調査地は調査以前は水田・畑地として利用され、現況ではこの上面に造成土が覆っていた。尚、調査の都合上、調査区を北と南に分区して調査を行った。基本層位は現代耕作土を第Ⅰ層とし水田床土を挟んで第Ⅱ層灰黄褐色土、第Ⅲ層黒色粘質土、第Ⅳ層褐色粘質土である。第Ⅱ・Ⅲ層が遺物包含層であり第Ⅱ層は中世、第Ⅲ層は弥生時代から古墳時代の遺物を包含する。第Ⅴ層以下は図2に示すとおりである。このうち第Ⅵ層はA T火山灰層である。

遺構はすべて第Ⅳ層上面での検出である。摺立柱建物跡1棟（中世）、溝7条（弥生～中世）、土坑2基（中世）、柱穴138基（摺立柱建物柱穴含む）、倒木跡2基ほかを検出した。ただし、調査壁の土層観察により、これらの遺構のはほとんどが第Ⅲ層上面から摺り込まれたものばかりである。摺立柱建物跡は桁行4m、梁行2mを測る1×1間の南北棟で比較的小規模なものである。柱穴内から土師器环（底部回転系切り離し）が出土した。溝SD3～6は南調査区の北東から南西方向にのびており、特にSD5は調査区中央部からほぼ直角に屈曲して南西方向にのびている。これらの溝は規模や形状が類似していることから同じ性格をもつ遺構と思われる。

断面形や埋土等から水利に伴う遺構と考えられる。その他、北調査区検出の土坑SK1から底部を上にした状態で、ほぼ完形の土製の茶釜が出土した。

遺物は全体的に僅少ではあるが、弥生時代から中世にかけて広い時期にわたって出土している。弥生土器や須恵器は小片が数点出土しているのみで、ほとんどが中世の土師器杯や皿などである。

小結 今回の調査により弥生時代から中世にかけての遺構・遺物を確認することができた。とりわけ、摺立柱建物跡や土坑など中世の遺構・遺物が多く検出された。特にSK1出土の茶釜は、ほぼ同時期と思われる

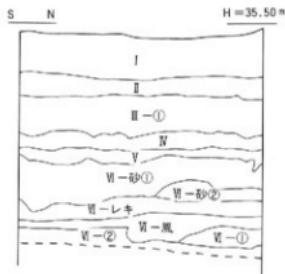


図2 基本層位図 (S=1:20)

枝松遺跡 4 次調査地

遺物が調査地東方の樽味遺跡 2 次調査検出の溝 S D 1 から出土していることもあり、今後、調査地北東から東方向に展開する中世集落との関係や、当時の煮沸具形態を検討していく上で本調査は貴重な資料となるものである。

【参考文献】田崎 博之 1993 「樽味遺跡Ⅱ」 爰媛大学埋蔵文化財調査報告 IV

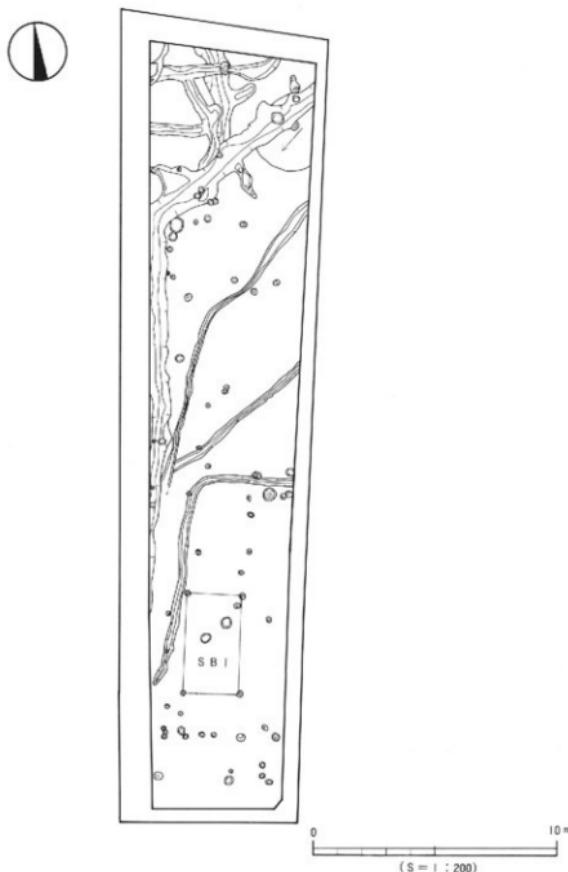


図 3 南調査区遺構配置図

枝松遺跡 4 次調査地

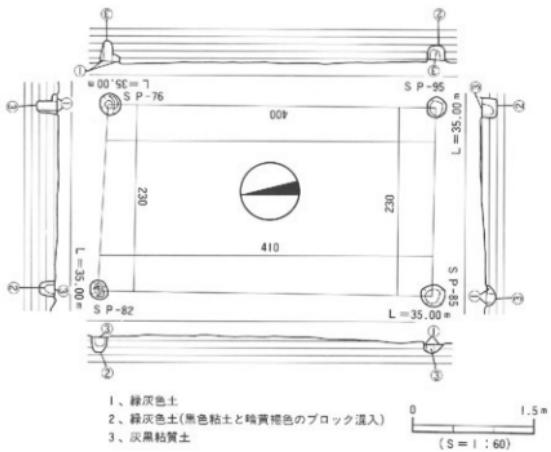


図4 SB-I測量図

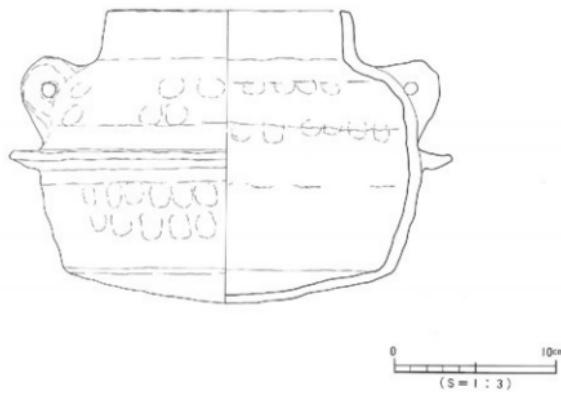


図5 SK-I出土遺物実測図

枝松遺跡 4 次調査地



写真1 南側調査地全景（南より）

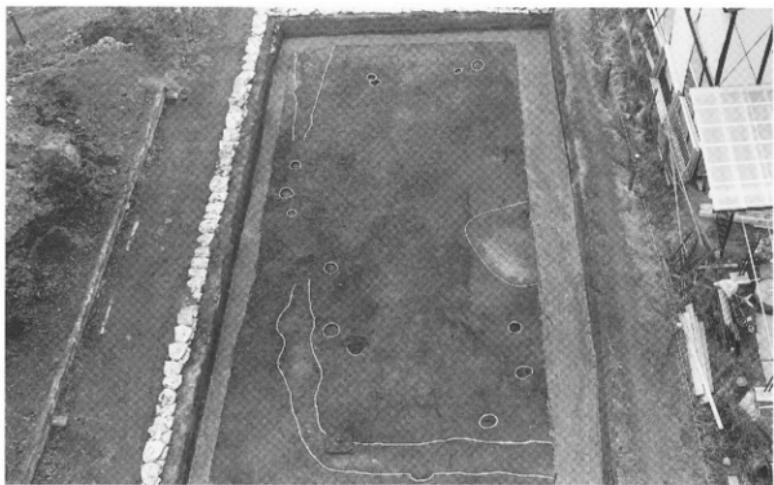


写真2 北側調査地全景（北より）

ツカモト 東本遺跡 4次調査地

所在地 松山市東本1丁目外
 期間 平成5年10月1日～
 平成6年7月31日
 面積 12,000m²
 担当 梅木謙一・宮内慎一・高尾和長・
 山本健一・水本完児・相原秀仁・
 大森一成



図1 調査位置図

経過 本調査は松山市東部環状線建設に伴う事前発掘調査である。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の『枝松遺物包含地』内にあたり周知の遺跡として知られている。同包含地内ではこれまでに桑原高井遺跡や東本遺跡(1～3次)などの調査が実施されており、弥生時代から中世までの遺構や遺物が多数検出されている。調査は市道桑原207号線から市道桑原349号線に至る全長約1km、道路幅20mのほぼ全域が調査対象地である。調査は、北より6区画に分け調査を開始した。

遺構・遺物 調査地は石手川左岸の低位段丘上、標高35m前後に立地する。調査以前は水田や造成地であった。遺構や遺物は地表下25～50cmの間に確認された。

検出された遺構は弥生時代から中世までのもので、堅穴式住居址18棟(円形2基・方形16基)、掘立柱建物跡4棟、溝38条、土坑41基、欄列1基、柱穴900数基他である。

円形の堅穴式住居址は直径9mをこえる大型のものであり、特に2区検出の203号住居址からは、住居の周りに「周堤帯」と呼ばれる土堤状の施設が検出された。これは西日本でも数例しか検出されておらず、非常に珍しいものである。この住居址の出土遺物には、弥生時代末(3世紀)の変形土器や鉢形土器、石包丁2点、石鍬1点などがある。

3区検出の302号住居址(弥生時代末)からは青銅鏡(破鏡)1点、線刻土器1点、ガラス玉5点、鉄製品1点などが出土している。

5区検出の502号住居址は、一辺6mをこえる方形の大型住居址で、深さ約80cmと非常に深いものである。内部施設としては住居址のほぼ中央部に炉があり、炉内からは炭化物及び焼土を確認している。

また、炉と壁との間に幅50cmの溝状遺構が「コ」の字状に巡る。出土遺物は弥生時代末(3世紀)の変形土器・鉢形土器や複合口縁壺・高环形土器・砥石2点・石包丁1点・鉄製品1点などが出土している。

一方、他の住居址は一辺が2～5mの方形の

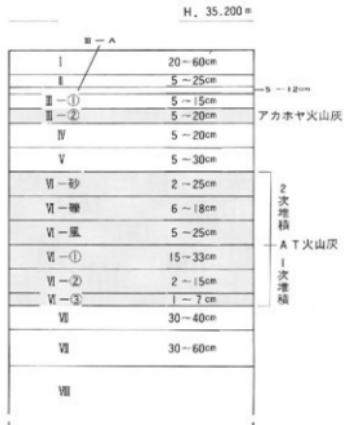


図2 基本層位図

東本遺跡 4 次調査地

住居址であり、ベット（屋内高床部）及び炉を付設しているものがある。

今回の調査で土壤分析を行い、地表下40～50cm及び110～150cmの間で2種類の火山灰を確認している。前者はアカホヤ火山灰（6,300年前）、後者はA T火山灰（約21,000～25,000年前）である。両者ともに1区～6区にかけて検出されている。また、1区～3区のアカホヤ火山灰の下からは槍先形石器や石鏃、スクレイバー（削器）などの石器類が出土している。アカホヤ火山灰と石器がセットで検出された例は四国初であり、貴重な資料を得ている。

小結 今回の調査で2区203号・3区302号の大型住居址と青銅鏡が出土したことなどにより、弥生時代後期における松山平野の拠点的集落を確認することができた。また、203号住居址の周堤帯、住居内を区切る小溝、502号住居址の床下より検出した「コ」の字状の溝は、西日本的にも検出事例が少なく、弥生時代の住居形態や構造を研究するうえで貴重な資料となるものである。

なお、本調査の詳細は報告書にて行うものとする。

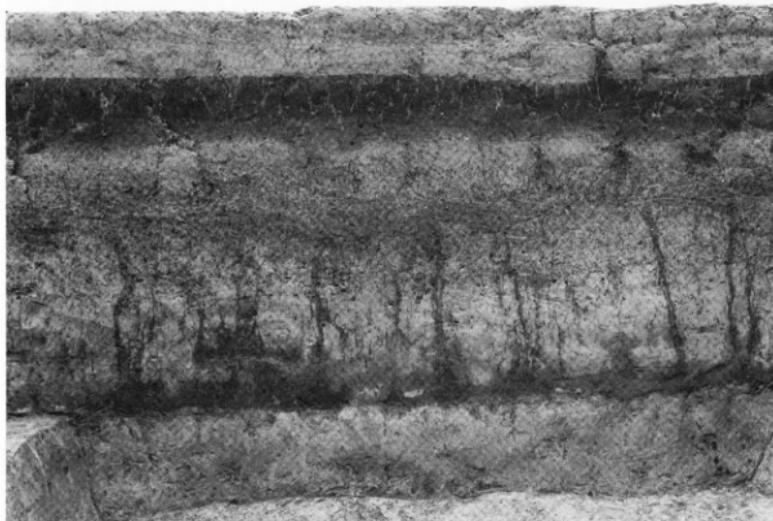


写真1 西壁土層（東より）

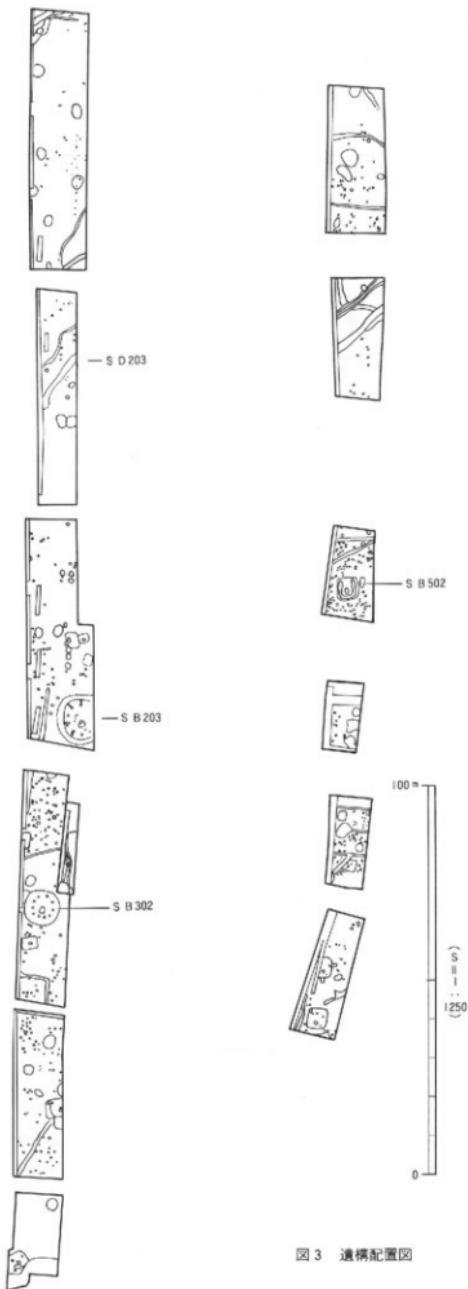
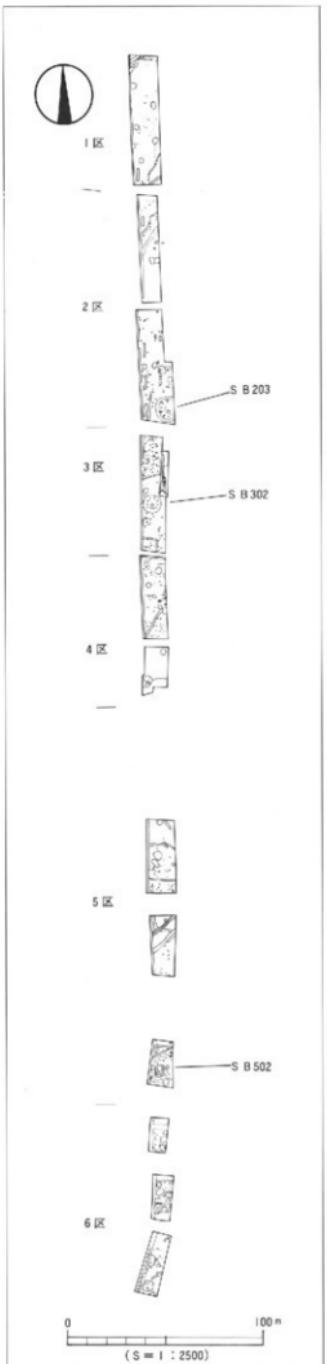


図3 透構配置図

東本遺跡 4 次洞査地

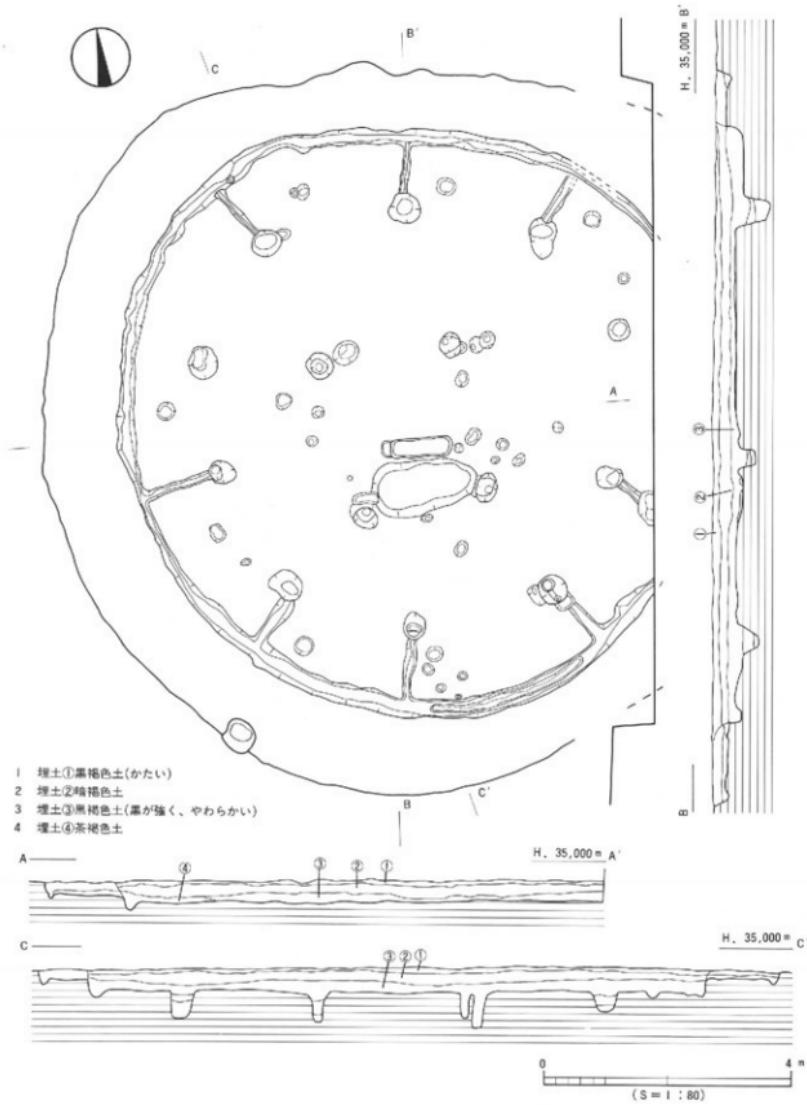


図 4 S B 203測量図

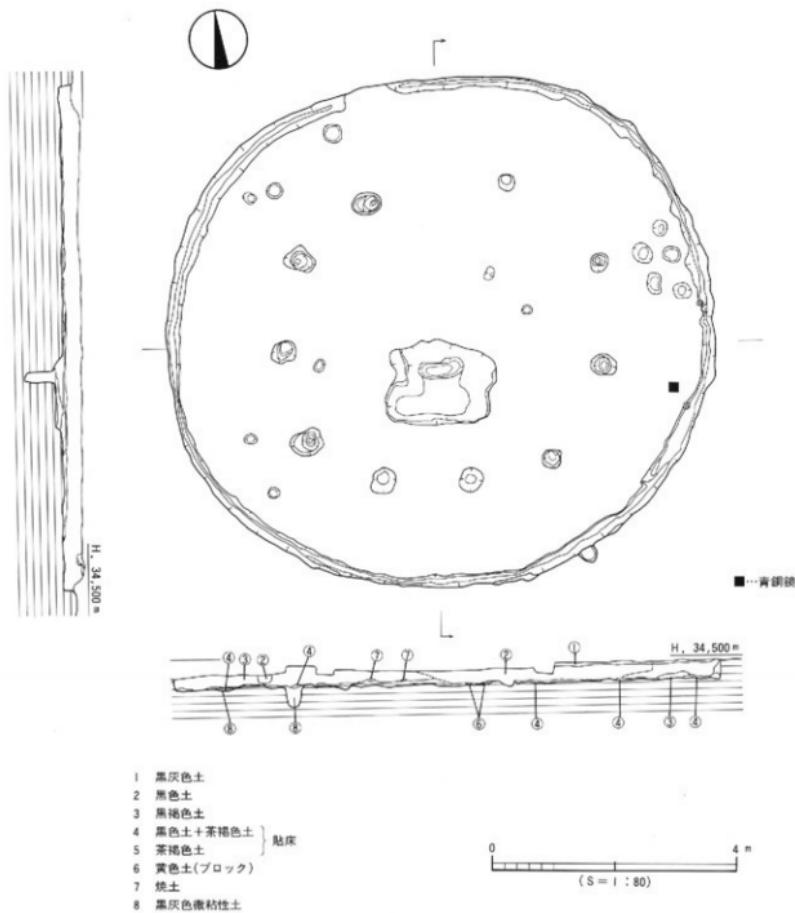


図5 S B 302測量図

東木遺跡 4 次調査地

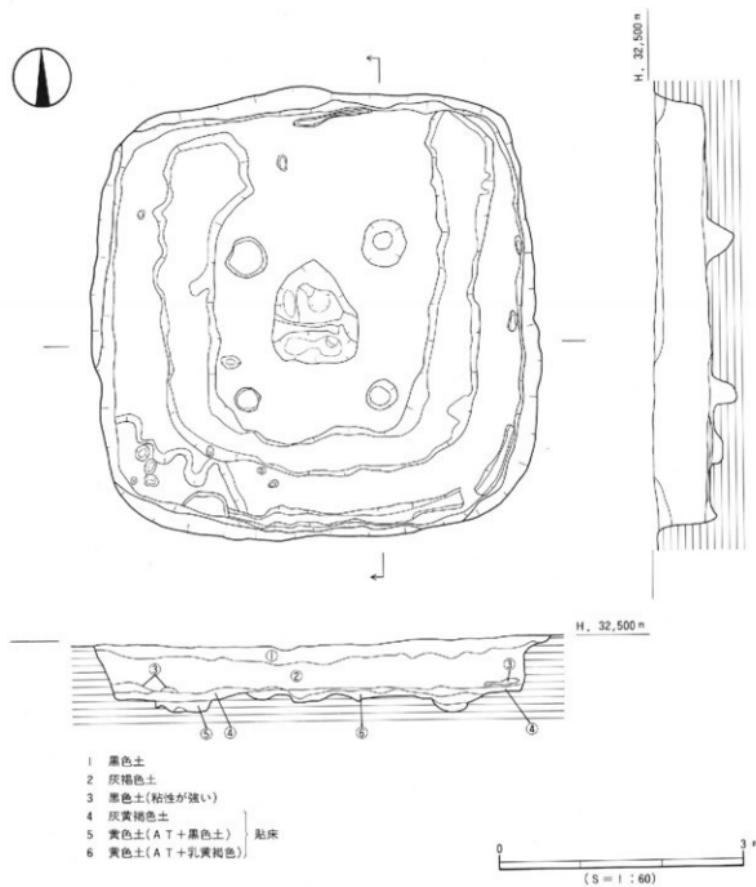


図6 S-B 502測量図



写真2 203号住居（南より）

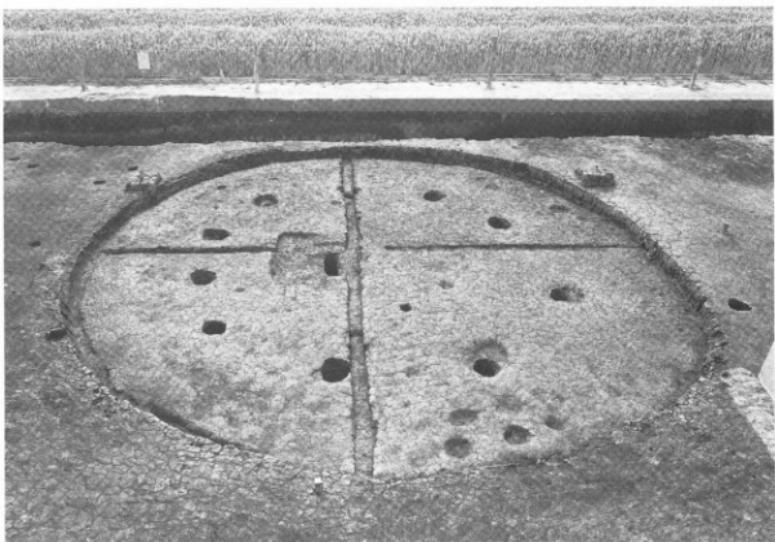


写真3 302号住居（東より）



写真4 502号住居（北より）

エダマツ 枝松遺跡 5次調査地

所在地 松山市枝松4丁目242番1・2
 期 間 平成6年11月22日～
 平成7年1月19日
 面 積 546.56m²
 担 当 相原浩二・河野史知



経過 本調査は、松山市同和教育課による教育集会所建設に伴う事前調査である。平成6年9月に試掘調査を実施した。その結果、弥生土器を中心とした包含層や遺構を検出したため、東本地区の集落の広がりを把握することを主目的に調査をおこなった。

当該地は石手川左岸の低位段丘上、標高31.3mに位置する。調査地周辺では、東本遺跡や枝松遺跡の1～4次調査が実施されており、弥生時代から中世までの遺構や遺物が多数検出されている。また、アカホヤ火山灰中より石器が出土している。

遺構・遺物 基本層位は図2に示すとおりである。第I層造成土、第II層近現代の耕作土、第III層床土、第IV層旧耕作土、第V層黄褐色シルト（AT火山灰）上面にて遺構検出。第VI層は3層に細分、第VII層暗褐色シルト、第VIII層鈍い橙色シルト、第IX層は砂質土である。

今回の調査により確認された遺構は、A区より井戸状遺構1基、溝状遺構1条、土坑状遺構2基、性格不明遺構3基、B区より竪穴式住居址1棟、集石状遺構2基、周溝状遺構1条、土坑状遺構3基、柱穴状遺構13基、性格不明遺構3基、C区より集石状遺構1基、土坑状遺構1基、柱穴状遺構7基、性格不明遺構8基を検出した。

井戸状遺構（SE1）A区東端において検出した。掘り方の規模は東西約1.6m、南北約1.3m、検出面よりの深さ約2mを割り、楕円形を呈している。井戸の径は約0.4mの円形であり、上部に約5～10cmの礫、下部において約8～13cmの比較的大きさの安定した礫が積まれており、その下の底面付近

L=31.20m

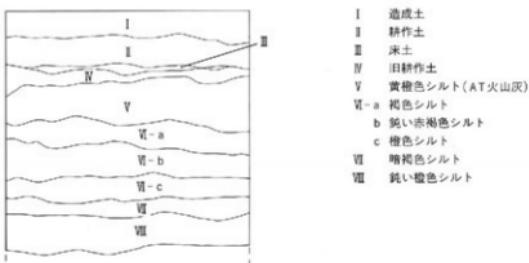


図2 基本層位図 ($S = 1/40$)

枝松遺跡 5次調査地

より曲げ物の残存と考えられる板材が薄く残っていた。井戸内より楕、瓦が出土している。

堅穴住居址（SB1）B区南東部において検出した。規模は一辺が約4.4m、検出面よりの深さ約0.15mを測り、4本の主柱穴を持つ方形の堅穴住居址である。住居址内より、壺型土器、甕型土器、

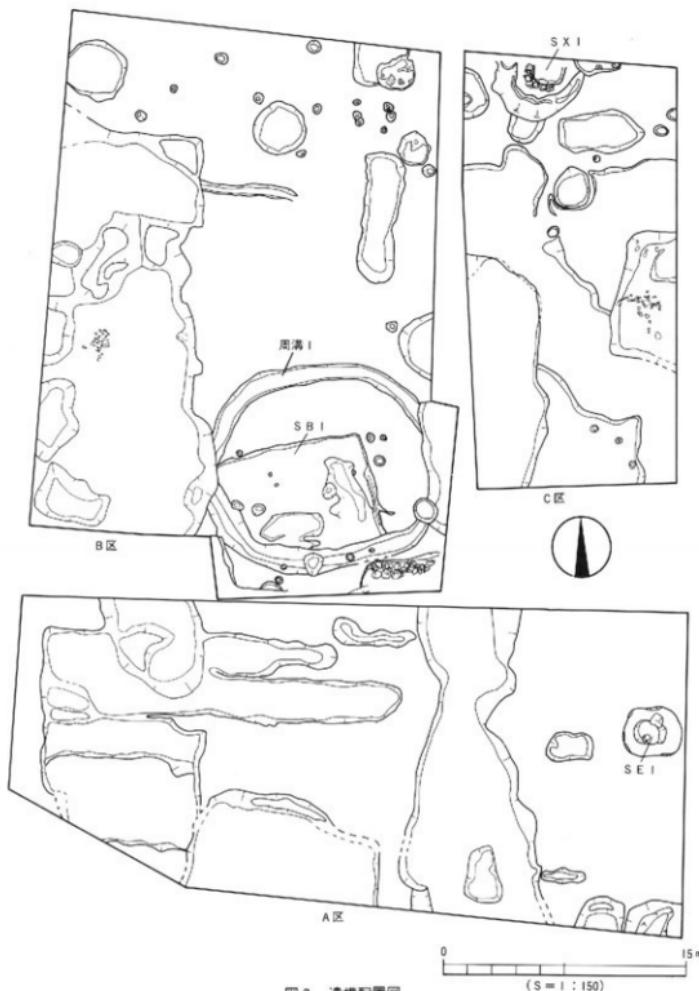


図3 造構配置図

枝松遺跡 5 次調査地

鉢型土器が出土している。

周溝状遺構（SD 1）はB区南東部に位置し、SB 1に切られる。規模は東西約6.5m、南北約5.5m、溝幅約0.5m、検出面よりの深さ約0.1mを測り、平面形は橢円形で断面形は逆台形状を呈する。溝内より、壺型土器、甕型土器、鉢型土器が出土している。

小結 今回の調査において、弥生時代後期から近世にかけての遺構・遺物とAT火山灰を検出した。調査地全体は近現代の擾乱によって大幅に削平を受けており、遺存状況は良くなかった。東本地区で遺構を検出した褐色土がA区北壁において僅かに残存しており、上面より堅穴住居址が検出された。今回検出された堅穴住居址から、東本地区で検出された弥生時代後期の換点的な集落の広がりが当調査地に及ぶことが確認できた。また、東本地区よりレベル的に低くなる地点にもAT火山灰の堆積が残存していることが確認された。尚、今回の調査で検出された周溝状遺構がいかなる性格をもつものか今後の整理課題である。

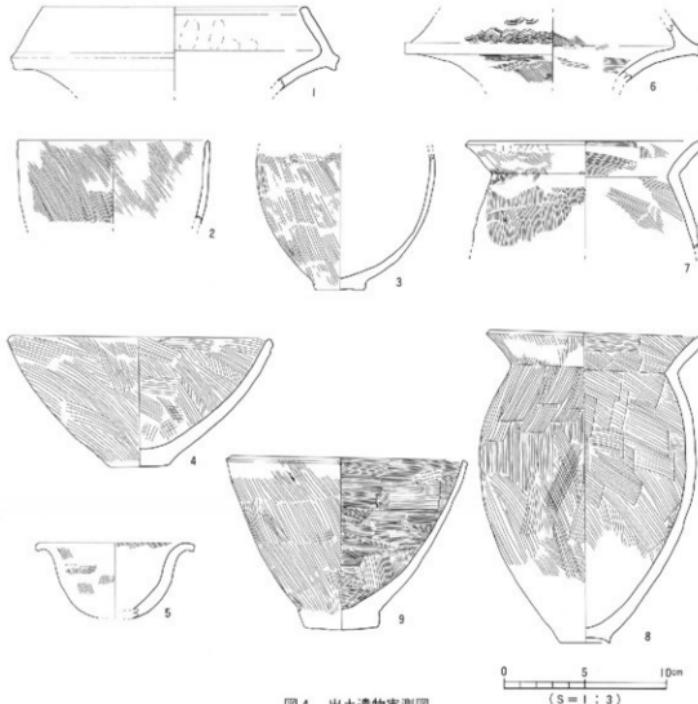


図4 出土遺物実測図

枝松遺跡 4 次調査地



写真 1
A 区 完掘状況
(北より)

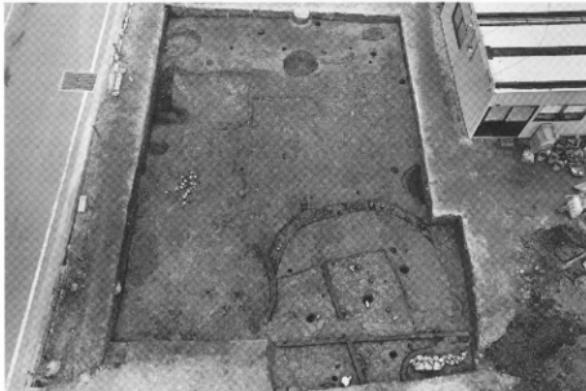


写真 2
B 区 完掘状況
(南より)



写真 3
C 区 完掘状況
(南より)

キヨウセキザン 経石山古墳2次調査地

所在地 松山市桑原4丁目410-3

期間 平成6年5月17日～

同年6月2日

面積 364.5m²

担当 田城武志・河野史知



図1 調査地位位置図

経過 本調査は、桑原経石山古墳包含地内における宅地開発に伴う国庫補助事業による事前調査である。平成6年2月に試掘調査を実施し、その結果、経石山古墳の周溝と思われる遺構と遺物包含層（須恵器・土師器）を検出したため、北側に隣接する経石山古墳1次調査より確認された周溝と関連する遺構の検出、1次調査では明確に把握できなかった周溝の時期設定を主目的に調査を行なった。

当該地は、松山平野のはば中央を西流する石手川左岸約1kmの東野洪積台地上に立地し、標高40mを測る。調査地周辺では、東に東野お茶屋台古墳群や寺竹ヶ谷古墳群、北には樽味四反地遺跡・樽味立派遺跡・樽味高木遺跡、南には筋通・福音小学校構内遺跡、西には釜ノ口遺跡・中村松田遺跡など、弥生時代から古墳時代にかけての集落遺構が数多く確認されている。また西隣には、5世紀末～6世紀初頭の前方後円墳と考えられている県指定史跡経石山古墳がある。当該地は後円部東裾に位置し、北隣には経石山古墳1次調査地があり、周溝内より鉄鏃や鉄斧を出土している。

遺構・遺物 層位は、宅地造成による真砂土、近現代の耕作土・旧耕作土、その下に黒褐色土である。黒褐色土上面において小溝状遺構を検出した。その溝は北から南に向か若干下がり、埋土中より上師器、瓦器柄、磁器等が出土していることから、13世紀代に比定できる。黒褐色シルト下面の地山面において周溝1条、柱穴状遺構15基、性格不明遺構2基、周溝の床面より土坑状遺構1基を検出した。

地山面より検出した周溝は、確認した幅5.1～6.7mであるが、東側は中段の肩と考えられ、調査区より東に延びる。1次調査同様に周溝埋土が暗褐色土であるのに対し、周溝内郭裾部は黒色傾向にあり、埴丘版築からの流れ込みが考えられる。出土遺物は弥生土器（前期～中期）に混じり、須恵器片（5C末～6C中頃）が出土している。周溝の南北壁付近の床面に平面形状の不整形な緩やかで浅い落ち込みが見られる。

周溝床面より検出した土坑状遺構は、隈丸の方形プランで堅穴住居址の可能性も考えられ、周溝に切られた状態での検出である為、遺構内には弥生土器の摩滅した洞部・石器がそれぞれ1点出土しているだけで明確な時期の確認には至らなかった。

小結 本調査において1次調査地で検出した周溝とのつながりを確認することができた。このことは本墳の規模を考える上で、大きい成果といえる。周溝の渋曲状態から推して古墳の中心軸は本調査地より南に位置することが考えられる。また周溝の内側に杭状の遺構が確認されたことより、内側に杭を打ち周溝内への土砂の流入を防止していることも考えられる。今回検出した周溝の東肩部は段落ちの肩部の可能性があり、本来の東肩部は調査区外に延びることが推測される。

蛭石山古墳 2 次調査地

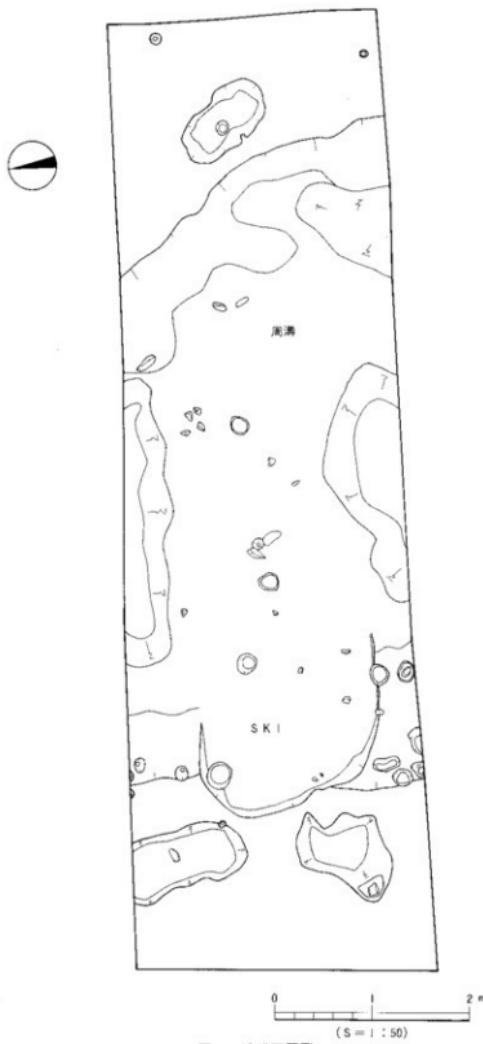


図2 造構配置図

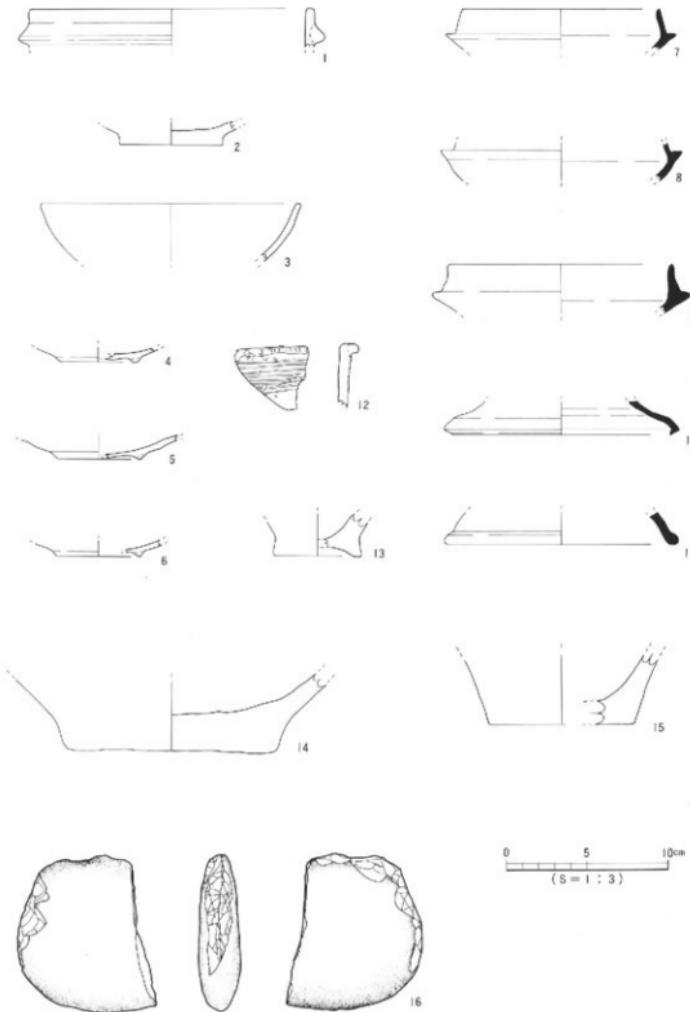


図3 出土遺物実測図

蛭石山古墳 2 次調査地

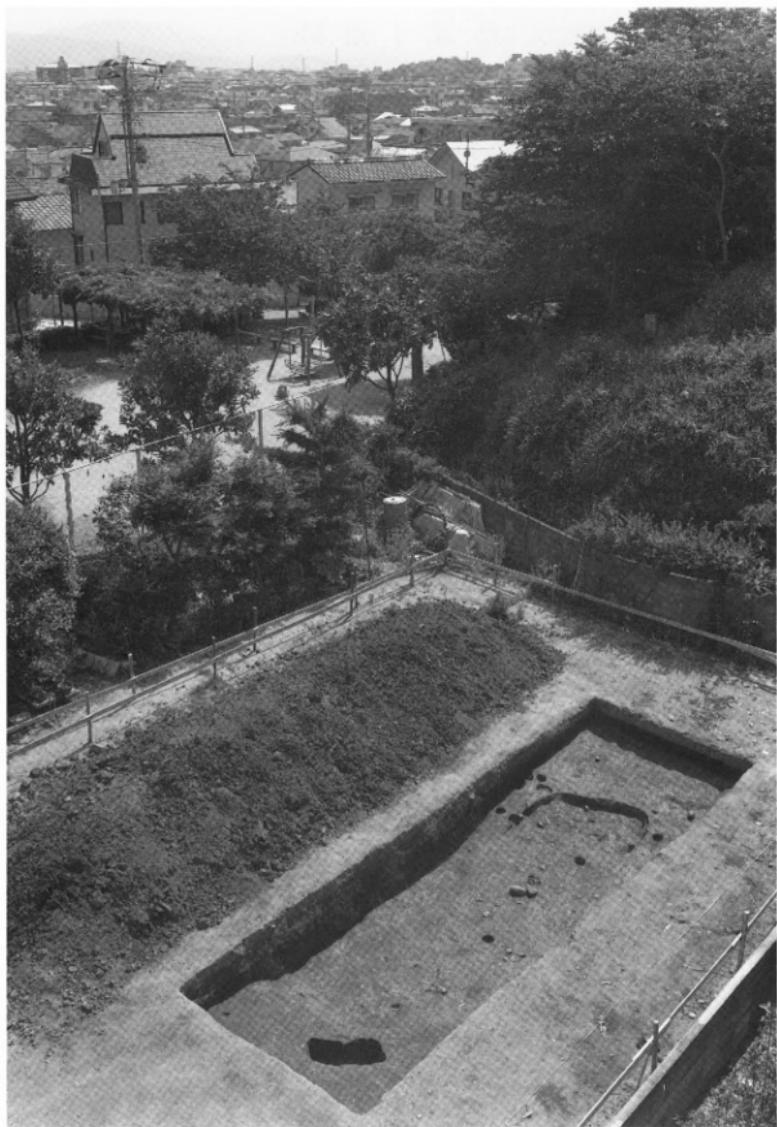


写真 I 完掘状況（北東より）

スジ 筋違 J 遺跡

所在地 松山市福音寺町533-1

期間 平成7年1月5日～
同年3月10日

面積 939m²

担当 田城武志・山本健一



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市福音寺町533-1外における宅地開発工事に伴う事前調査である。調査地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No. 116川付遺物包含地」内にあたり、国道11号線福音寺高架下東隣に位置する。本調査地の位置する福音寺地区は、竹ノ下遺跡、筋違A～I遺跡、福音小学校構内遺跡をはじめとした弥生時代から中世にいたる遺跡群の集中する地域である。また、周辺に点在する独立丘陵上には、天山、星岡、東山等の古墳群が分布し、南東にひろがる来住台地上には、久米高畠遺跡、来住庵寺等の官衙関連遺跡、寺院址を中心に绳文時代から古代・中世の遺跡が分布している。本調査は、既に調査されている筋違A～I調査により検出された遺跡の広がりと関連性について調査することを主目的として実施した。

遺構・遺物 本調査地で検出した遺構は、古墳・古代～近・現代のもので、掘立柱建物4棟、溝10条、土坑36基、柱穴196基である。古墳～古代の遺構は北部よりに、中世～近世の遺構は南部に、近現代遺構は調査地全体で検出した。掘立柱建物S B 1～3は柱穴埋土、出土遺物などから古墳～古代の建物と思われ、S B 3の全容は不明であるが東西棟であろうと思われる。溝10条のうちS D 3～6・8・10は埋土が地山土と灰色土の混合掘削土であること、方向がほぼ東西で同じことなどから近・現代の耕作地の区画溝ではないだろうか。S D 1は、下位層に砂の堆積がみられること、本層中から塗り物の箸・楕の破片、陶器碗、皿、摺鉢、出刃包丁、砥石が出土した。これらのことから生活用水路と考えられる。土坑は、墓坑15基（SK14～26・29・34）、井戸1基（SE1）、肥料貯め或いは便所3基（SK12, 19, 28）、粘土抜き跡2基（SK10・SX1）などがある。墓坑は、副葬品などの遺物の出土はほとんど無く明確な時期の決定はしがたいが、墓坑の掘り方、埋土の違いなどから時期差が伺える。

小結 本調査地では、古墳時代～近・現代の生活関連遺構を確認したが、ほとんどの遺構が近現代遺構であった。15基確認された土坑墓は、出土遺物が無く時期判断は行い難いが、下部施設の痕跡などから、周辺調査地検出の土坑墓との比較資料の一つになるものと思われる。調査地中央北寄りで検出された生活水路（SD1）、雨落ち溝（SD7）、便所（SK12, 28）などの遺構は住宅としての施設であり、上屋の構造は不明であるが、生活水路は北限、便所と思われるものが東限、雨落ち溝が南限となる敷地面積が想定できんだろうか。今まで筋違地区の調査で検出されている弥生時代の遺跡は検出されなかったこと、古墳・古代の遺構も調査地北隣でのみ検出されたこと、現在の地形が調査地より川付川へ落ち込む変換点であることなどから東方に広がる遺跡の西限の一部分である可能性も考えられる。

筋達 J 遺跡

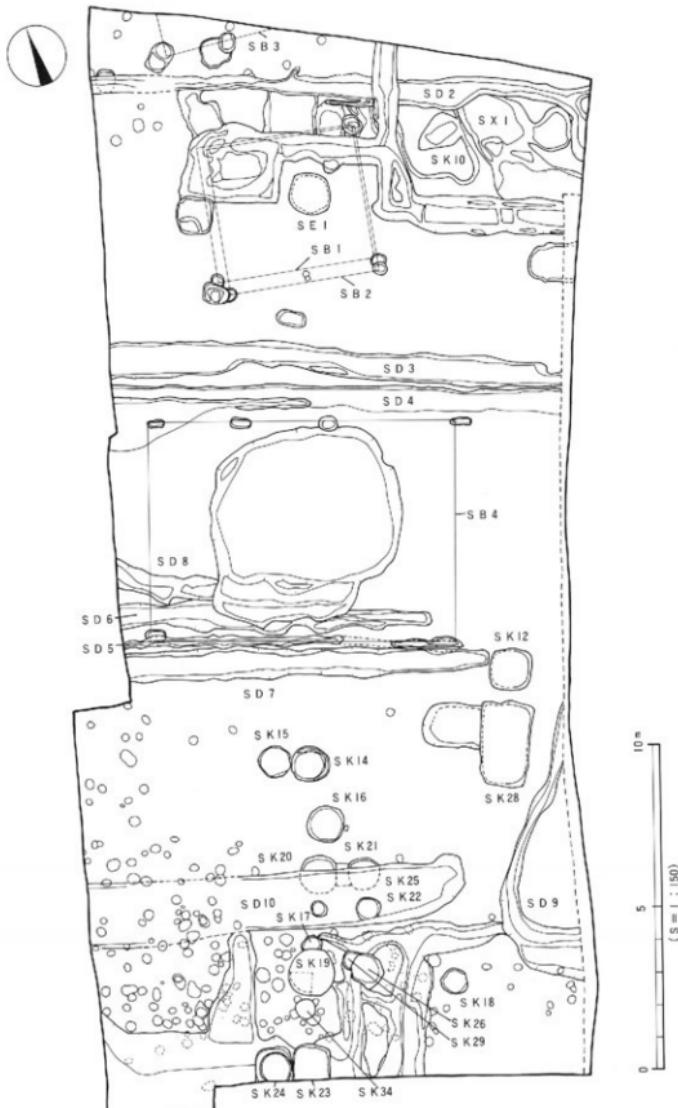


図2 遺構配置図



写真1 遺構検出状況（南より）



写真2 SK23落込み石検出状況（東より）



写真3 SK24木棺痕跡（東より）

ナミクメサガ 南久米斎院遺跡 2次調査地

所在地 松山市南久米町631-1

期間 平成6年6月20日～

同年7月22日

面積 600m²

担当 田城武志・相原浩二



図1 調査地位置図

経過 本調査は、「No.127 来住庵寺跡包蔵地」内における宅地造成に伴う国庫補助事業による事前調査である。当該地は、松山平野北東部に広がる堀越川と小野川に挟まれた扇状をした米住台地上標高39.7mに立地し、国指定史跡来住庵寺より300m北東に位置する。

これまでの調査で、この米住台地上には、法隆寺式伽藍配置を持つ白鳳時代の来住庵寺跡や、官衙に関連する遺構を検出した久米高畠遺跡等の有数の遺跡が存在することが明らかとなっている。特に「久米評」線刻須恵器を出土した久米高畠遺跡7次調査や、一辺が約50m程の方形の柵列のなかに数棟の掘立柱建物がほぼ真北の方位をとる官衙遺構を検出した久米高畠遺跡22次調査は、近年の調査のなかでも貴重な成果を得た遺跡として特記される。

遺構・遺物 本調査により検出された遺構は、掘立柱建物跡2棟、堅穴住居址2棟、溝状遺構9条、土坑状遺構13基、柱穴110基、倒木跡2基で、そのほとんどが第IV層黄色土上面で検出された。遺物は、弥生時代前・中・後期の土器と、須恵器片、石棒、土玉等が出土している。

弥生時代の遺構としては、堅穴式住居址(SB1)がある。調査区ほぼ中央南面に「コ」の字状に検出され、住居址の南壁が調査区外のため正確な規模については未確認であるが、東西4.5mを測り、南北は推定5m前後の隅円方形住居址と考えられる。埋土は、第IX層黒色土が周壁溝と柱穴に薄く遺存するのみであった。北側周壁には、幅10cm程の小溝が幾重にも走り、浅く凹地を形成している。また、北壁には幅80cm程のベット状遺構を伴っている。住居址中央よりやや南側寄りに径1mの土坑を検出した。そこからは、炭化物、弥生時代後期を中心とする壺、甕、土玉等、多数の弥生土器を出土しており、炉跡と考えられる。

次に、古代の遺構では掘立柱建物跡(掘立1)がある。調査区の北西部に8基の柱穴を「コ」の字状に配した状態で検出された。建物は、直径60~70cmの円形(方形に近いもの有り)、深さ約30~40cmの規模を持つ8基の柱穴で形成されている。埋土は、主に黄色土をブロック状に混入した黒褐色土と黒色土の2種類の柱穴に分類できる。柱痕は、ほとんどの柱穴において検出されず、南東角の1基から直径20cm、深さ20cmの痕跡を確認したにとどまった。桁行の柱穴間隔は約170cm、梁行の柱穴間隔は約170cm、桁行4間×梁行2間以上(690cm×?)の規模の建物で、建物北側は調査区外へと続いているため確認できなかった。方位は、短軸がほぼ真北をとっている。遺物は、柱穴内より須恵器片数点出土しただけであったが、2基の柱穴には約25cm大の根石が遺存していた。

小結 今回の調査は、旧耕作土の直下が遺構面であったため、遺物、遺構とも削平されて判然とはしなかったものの、弥生時代後期の堅穴式住居址1棟、古代の掘立柱建物跡1棟を確認する

南久米斎院遺跡 2 次調査地

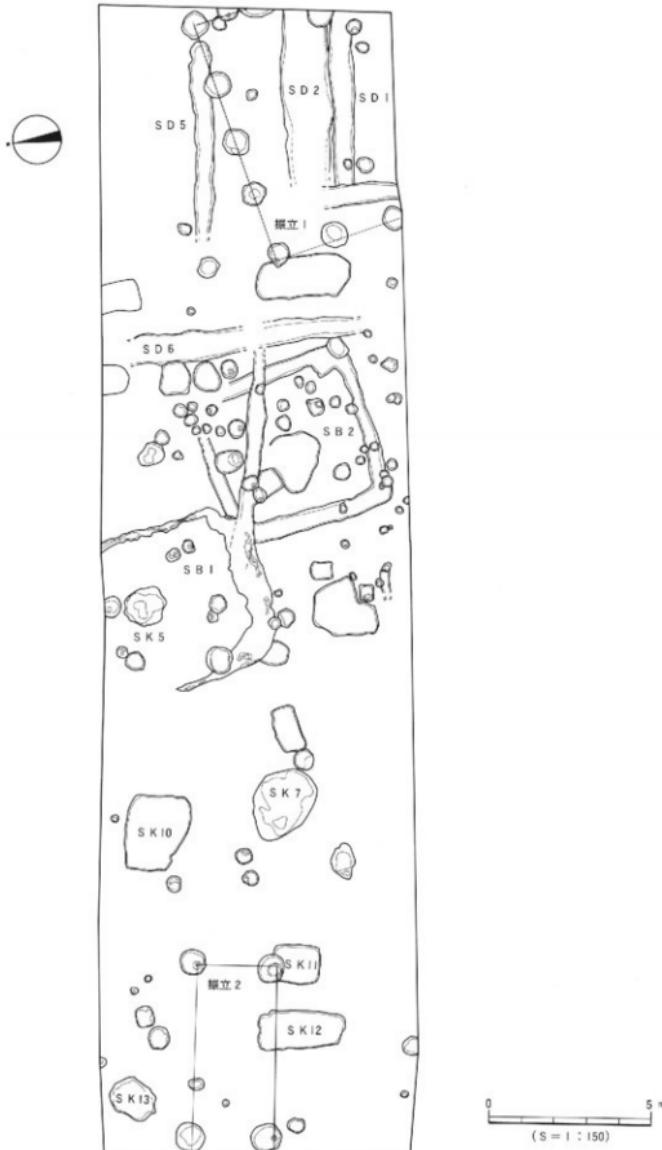


図2 遺構配置図

ことができた。ただ、SB2と掘立2については遺物が検出されなかつたことなどから、現段階では不明としておく。溝状遺構、土坑状遺構にしても、掘り込みは浅く、遺物も皆無といった状態であったために性格や年代の把握は困難ではあったが、埋土から推測して、溝状遺構は近現代の開墾行為によるものと考えられ、土坑状遺構については土師皿、土鍋片があることから中近世の土壤墓の可能性があると考える。

遺物の少ない本遺跡にあって、SB1内の炉跡は特筆すべきものであった。炉跡内に遺存する多数の弥生土器に混じって数個の拳大の河原石が遺存していたこと、焦土が検出されなかつたこと、5mmの大の土玉が数個出土したこと等、多くの検討課題を残すこととなつた。

また、掘立柱建物跡（櫛立1）は建物の規模的にみても、方位的にみても、来住庵寺や官衙遺構に関連する建物であることが推測できる。この建物の検出は、来住庵寺に関連する道路の広がりを再検討する新たな資料となつた。

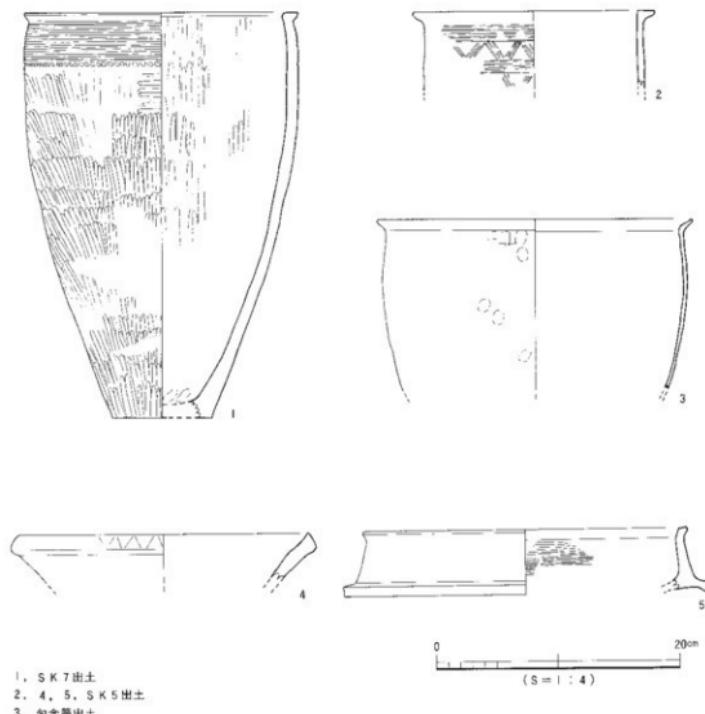


図3 出土遺物実測図



写真1 完壊状況（西より）

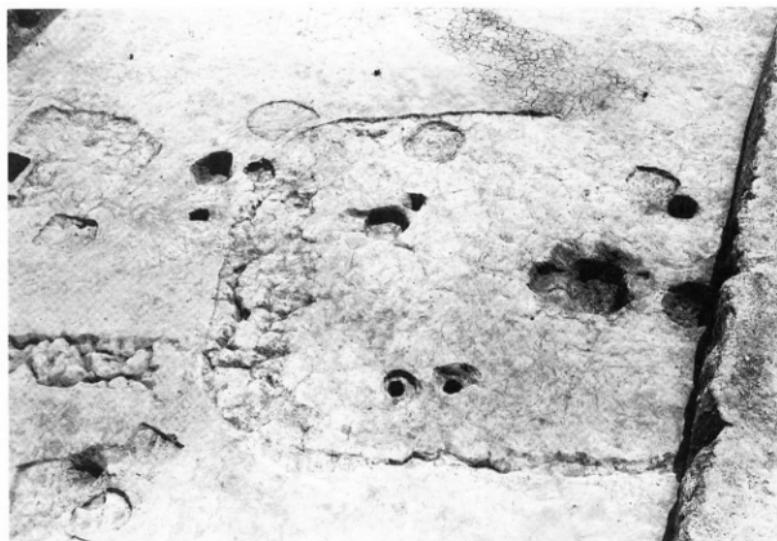


写真2 SBI（西より）

タカノコシンバタ
鷹子新畠遺跡 3次調査地

所在地 松山市鷹子町650-1

期間 平成7年3月20日～
同年3月31日

面積 982.83m²

担当 相原浩二・河野史知

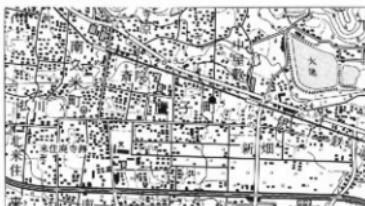


図1 調査位置図

経過 本調査は、鷹子遺物包含地内における宅地開発に伴う事前調査である。平成6年9月に試掘調査を実施し、その結果、地表下約0.4mの地山面にて土坑状・柱穴状遺構と土師器を検出したため、当地域における集落の様相を把握することを主目的に調査をおこなった。

当該地は、松山平野南東部の洪積台地からなる来住舌状台地上の標高48.5mに立地する。調査地周辺では、北方に、芝ヶ崎・五郎兵衛谷古墳群等の古墳群が分布、東方約50mの鷹子新畠遺跡1・2次調査地において弥生時代・古墳時代・中世における住居址やそれに伴う遺物が検出されている。

遺構・遺物 層位は、現代の造成土の下に旧耕作土、それに伴う床土の下より、硬を多含する地山で遺構の検出面が存在する。現地表面より遺構検出面は深さ約70cmであり、地山直上まで耕作段階による削平がなされており、旧地形は北東より南西方向に僅かに下がる緩斜面であることが考えられる。

今回の調査によって地山面より土坑状遺構1基、井戸状遺構1基、溝状遺構2条、柱穴状遺構36基、小穴状遺構22基、性格不明遺構2基を検出した。

井戸状遺構（S E 1）は、調査区の南西部において検出した。東西2.5m、南北2.3m検出面よりの深さ0.8mを測り、平面形は楕円形、断面形は深鉢状を呈しており、素掘りの井戸が考えられる。埋土は上層は砂質土で中層ではシルト質に変わり底面では粘土層の堆積となる。遺物は遺構内上面より土師器・陶器片、底面の約30cm大の礎上より3個体の土釜片が出土している。

掘立柱建物（S B 1）は、調査区西側において検出した。規模は梁行2間の柱間2.32m、桁行2間の柱間2.76mで桁方向は調査区外にのびる。棟方向W-11°-Nの東西棟である。柱穴は円形～楕円形で、直径約0.20～0.60m、深さ0.08～0.41mを測る。遺物は埋土中より土師器の細片が僅かに出土しただけである。時期は柱穴埋土より中世期が考えられる。

土坑状遺構（S K 1）は調査区南壁中央よりやや東において検出した。遺構の南側は調査区外に延びており全容は不明であるが、東西軸約2m、検出面よりの深さ約0.1m、断面形は皿状で平面形は不整楕円形が窺える。遺構西肩部に焼土塊が見られ、調査区外の残存状況次第では堅穴住居址である可能性も考えられる。遺構内より、須恵器・土師器の細片が出土している。

小結 本調査において5C後半の土坑状遺構・柱穴状遺構、14C～15C代における掘立柱建物・井戸状遺構・柱穴状遺構を検出した。井戸状遺構内より出土した土釜は、口縁から底・脚部まで残存しており、良好な資料の出現である。これらのことより、2次調査において検出された古墳時代や中世における生活域、つまり、本調査地にも関連する集落の存在を示唆するものと考えられる。

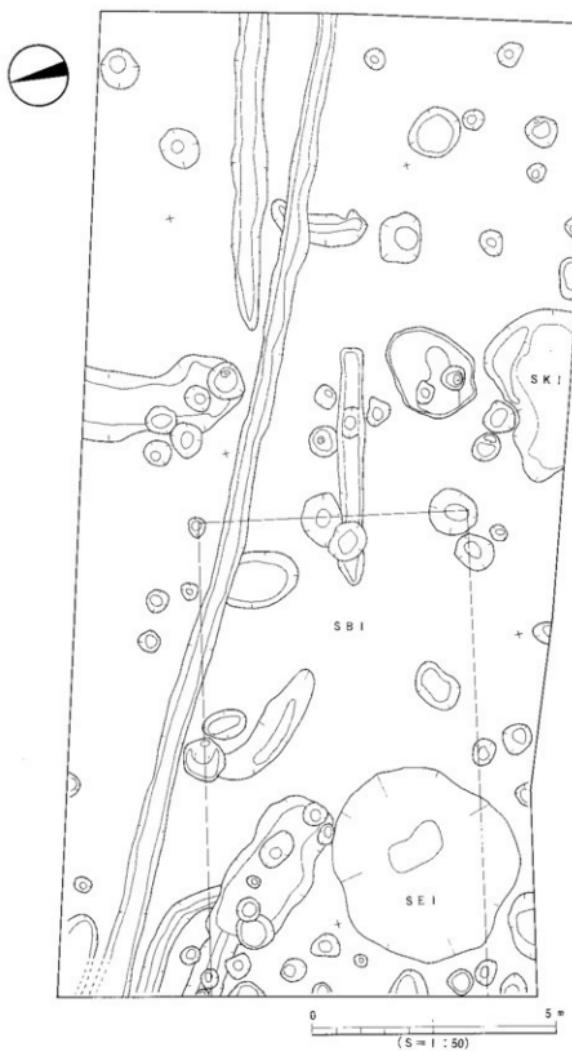


図 2 遺構配置図

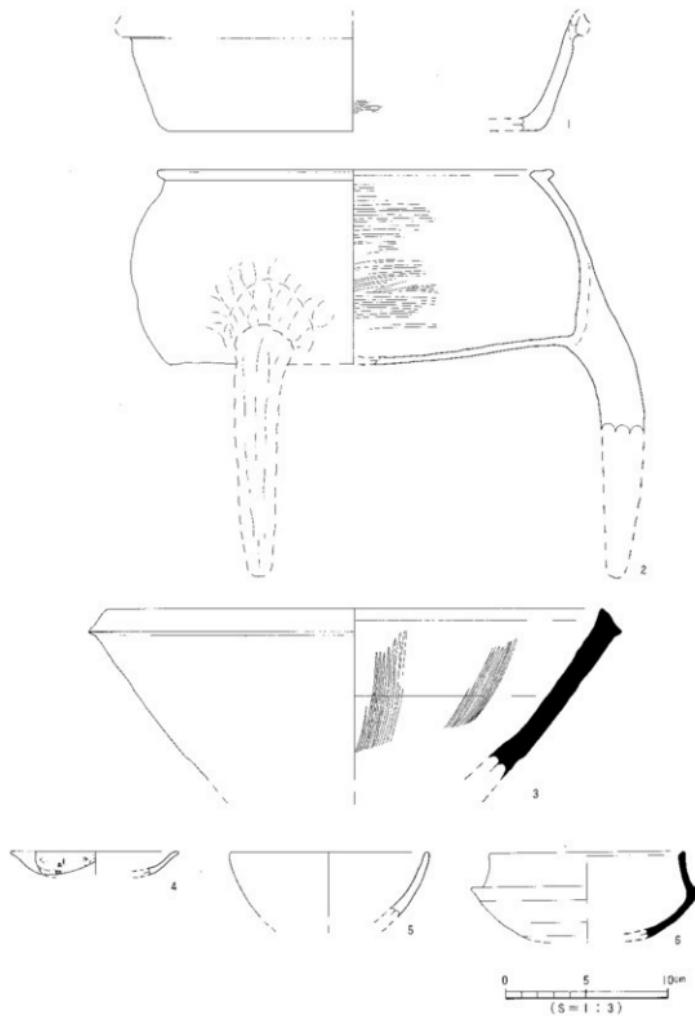


圖 3 出土遺物實測圖

鷺子新郷遺跡 3次調査地

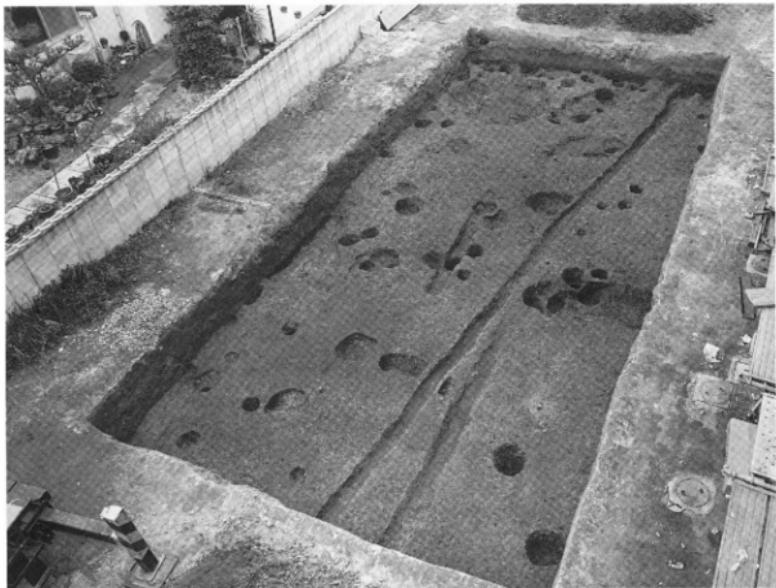


写真1 完掘状況（北東より）



写真2 S E I ベルト土層（東より）

久米高畠遺跡23次調査地

所在地 松山市南久米町723-1外
期間 平成7年1月17日～
同年3月15日
面積 996.22m²
担当 橋本雄一・相原秀仁



図1 調査位置図

経過 病院の病棟建設に先だって発掘調査を行ったものである。調査地の南方約200mには、方一町規模の「回廊状遺構」と呼ばれる施設、また、西方約100mには「久米評」線刻須恵器との密接な関係が想定されている官衙施設などが位置している。調査は、これら官衙施設の周辺への広がり方を把握することを主目的として実施された。

遺構・遺物 官衙との関係を具体的に説明できる遺構は検出されなかった。調査区の北部で確認された掘立001は、規模と方向性などから、官衙出現以前の古墳時代後半期のものと考えられる。また、調査区の南部に位置する掘立002については、官衙と対応する建物である可能性も否定できないが、今次の成果のみでは判断できない状況にある。遺物に関しては、官衙と密接な関係が予想される性質のものはほとんど出土していない。

以上のように、古墳時代以降の遺構と遺物については希薄であったが、これとは対照的に、弥生時代前期末から中期初め頃の遺構と遺物に関する資料を多く得ることができた。S D001は、幅3m、深さ1mを超える規模の巨大な溝である。底面は平坦に掘られている。上の堆積状況によると、水が流れたような痕跡は確認されていない。土層断面の観察によると、いずれも、溝の西側から東方向への土砂の流れ込みが強い傾向が認められた。これは、掘りあげた土を溝の西側の隣接した地点へ置いたことを示唆するものと考えられる。場合によっては、環濠と土塁の組み合わせを想定する必要もあるが、点の調査でしかないので、ひとまず弥生時代の大溝であると述べるに止めておきたい。

図3は、大溝出土の土器である。壺の口頭部内面には、突帯が貼り付けられているものが多い。4は無頸壺であるが、その文様の特徴は他の土器と共通している。壺に関しては、口縁部の形態に大きく分けて2種類のもののが存在する。底部は焼成後に穿孔されたものが多く認められる。

S B001は堅穴住居の床面付近が僅かに遺存したものと考えられる。ここからは、比較的まとまった量の弥生土器が出土しており、それらの特徴から、大溝と同様の時期の遺構である可能性が考えられる。大溝との関係上、注目されるだけでなく、過去の調査においては、当該期の遺物が遺構と絡む例が少なかっただけに、重要な資料となるものである。

小結 大溝最上層出土の遺物の中には、6世紀から7世紀初めころの須恵器が存在している。これらの遺物は、重複する掘立001などに伴うものである可能性も否定できないが、その出土状況から、この溝が、この時期に至って最終的に埋没したことを示すものではないかと考えている。したがって、今後は、古い時期の大規模な遺構の存在が、後世の景観の中にその痕跡をとどめている可能性があることを念頭に置いて調査を行っていく必要があると考えられる。

久米高畠道路23次調査地

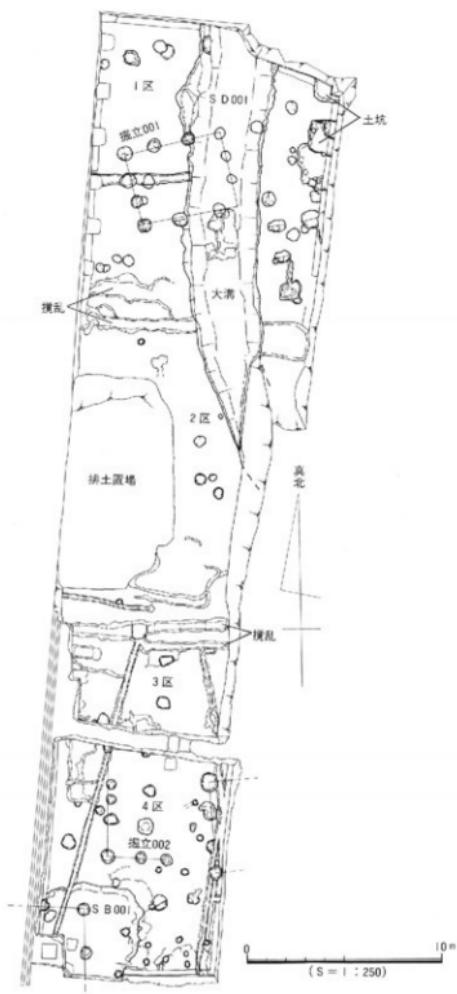


図2 這構配置図

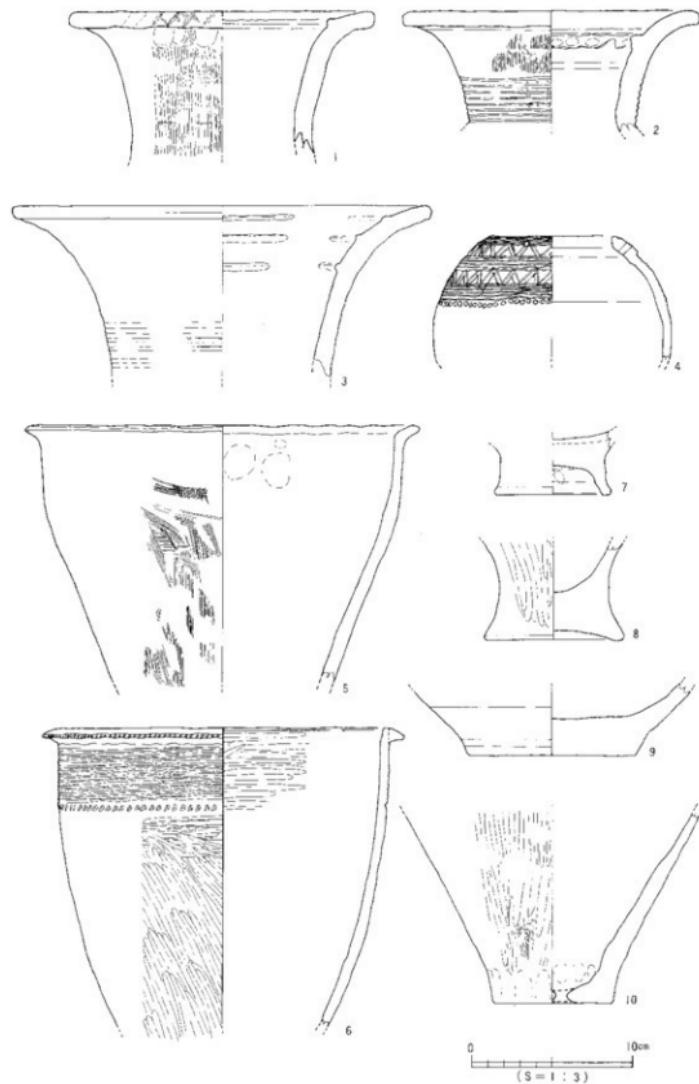


図3 SD001出土遺物実測図



写真1 大溝：S D001完掘状況（北より）



写真2 大溝土層堆積状況（南より）

キシハイジ 来住廃寺23次調査地

所在地 松山市来住町856-17

期間 平成6年7月1日～
同年10月31日

面積 259.14m²

担当 橋本雄一・相原秀仁



図1 調査地位置図

経過 個人住宅の建設にさきだって、国庫補助事業として発掘調査を実施した。当該箇所は、7世紀後半期の官衙関連施設であると考えられている「回廊状遺構」と呼ばれる施設が位置するところが、過去の調査成果から予想されていた。発掘調査の結果、「回廊」西辺の北部と、その付随施設などの一部を確認した。

遺構・遺物 今次の調査において最も注目されたことは、「回廊」と呼ばれる構造物と、それを取り巻く方一町の区画溝の一部について、ともに改築・改修の痕跡が確認された点である。「回廊」は、その外側柱列のみが同一軸線上において建て替えられていた。ところが、対応する内側の柱については、改築された形跡は認められなかった。したがって、「回廊」を一度撤去した後、一本柱壠などの異なる形状の区画施設に改築されたものと理解される。柱穴の形状は、改築前のものは底面が平坦な長方形でより深く掘り込まれているものが多いのに対して、改築後はやや小振りで若干浅いものが主体を占める傾向にある。柱の間隔は、平均約197cmから約205cmに変更された結果、各ピットが切り合ひ関係のもとにある部分もある。内側の柱穴の形状は、外側と比較して明らかに小さくて、底面はフラットではなく、深さについても浅いものが主体を占める。この点について、建築学的な視点から、均整のとれた形状の回廊を想定するのは難しいのではないかと考える見方もある。なお、改築前の外側と内側の柱の心心距離は平均202cmを測るが、一定のものではなく、外列の柱筋に対して垂直の位置関係をとるものではない。この点も、回廊の形状をとるものとはみなしづらいとの評価を受ける一因になっている。一方、区画溝S D01は過去の調査成果を総合すると、概ね方一町規模で「回廊」のまわりをめぐることが想定されているが、今回の調査において、新たに、部分的に改修された痕跡を確認した。ある程度堆積土が溜まった段階で、溝の西辺沿いで改めて掘削されたものと理解している。よって、区画溝も「回廊」も併に、改めて人の手が加えられた段階があったことが判明したが、これによって両者が全面的に改築・改修を受けていたと推測されるわけではない。このような状況は、過去の調査においてはまったく確認されていないのである。したがって、改築に関する評価については、部分的なものと判断せざるを得ないが、この施設が一定期間継続して使用されていたことは間違いないといえる。この施設に関しては、齊明天皇の『石湯行宮』の一部に比定する説が提示されているが、今回新たに得られたデータは、その性格を考えるうえで重要なものと評価できよう。

ところで、遺物に関しては、直接「回廊」の年代推定に結びつくものは得られていない。3は土師器の高盤であるが、おそらく「回廊」撤去後に重複して建てられたと考えられている米住廃寺の段階のものであろう。これは、改築後の「回廊」を切る S D02の検出面付近から出土したもので、その形

来住廃寺23次調査地

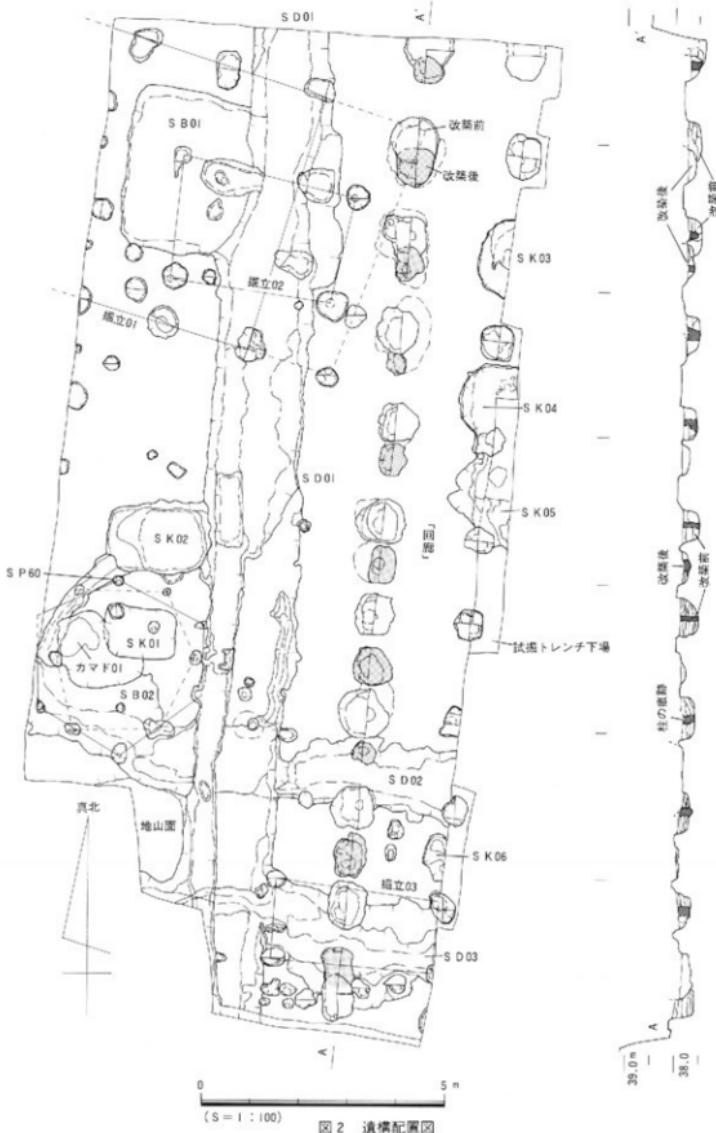


図2 遺構配図

来住庵寺23次調査地

状から概ね8世紀前半代のものと推測される。环部の立ち上がりは短く、暗文は認められない。軸部外面は工具によって面取りされ、脚の高さは低い。全体に厚手のつくりになっており、在地的な要素が濃厚な器であるといえる。同じく回転台土師器であると考えられる4もSD02から出土したものである。少量ながら、この種の遺物が過去の調査においても出土しているので、今後その生産と流通のありかたを検証する必要がある。6は包含層出土の墨書き器の破片である。概ね古代の範囲でとらえてよい遺物と考えられる。なお、文字の判読はできない。

「回廊」関係以外の古代の遺構としては、SD02と03が挙げられるが、これらは来住庵寺存続期を上限とする時期の溝であると考えられる。掘立01は古墳時代後期の建物で、東面に庇が付く可能性が高い。「回廊」以前の段階のものである。この他の遺構は概ね弥生時代のもので、このうちSB01については、床面及び壁材の痕跡を部分的に確認することができた。掘立02と03も弥生時代の建物であろう。SK02からは、中期初頭ころの土器や石器が少量ながらまとまって出土している(1・2)。

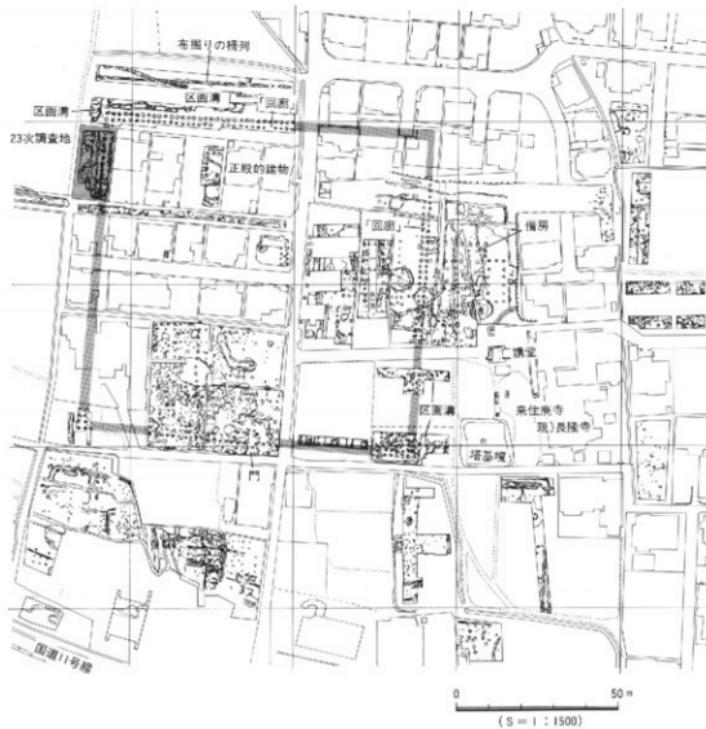


図3 調査区位置図 (50m メッシュ)

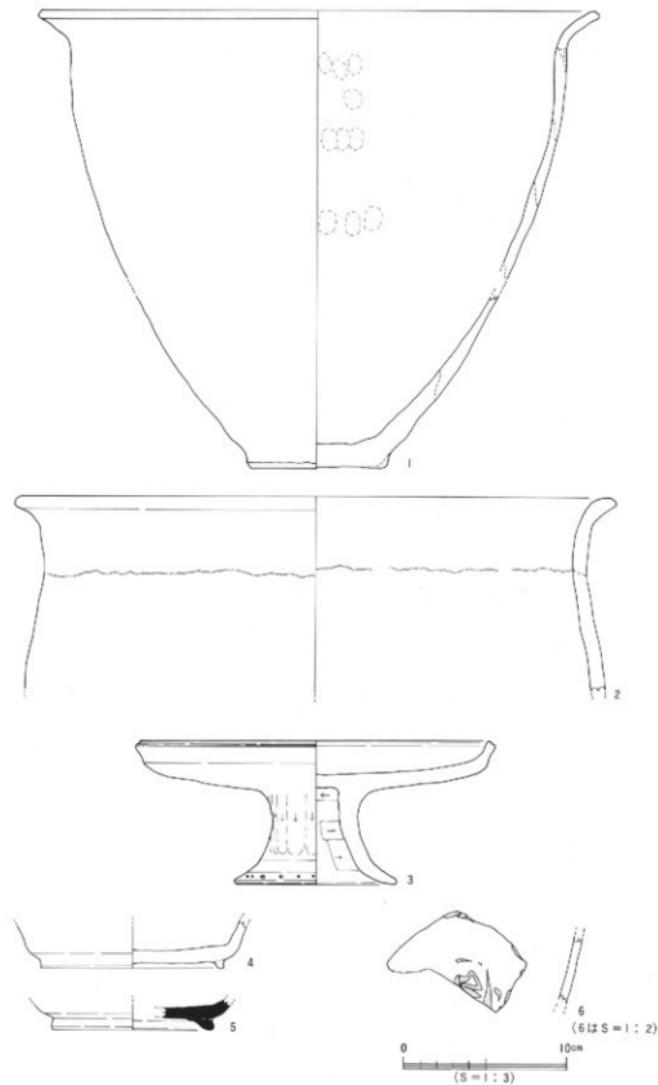


図4 出土遺物実測図



写真Ⅰ 完掘状況（南より）

来住庵寺23次調査地



写真2 回廊北部土層断面（北西より）

来住庵寺塔基壇

↓



写真3 調査地遠景（北西より）

キシハイジ 来住庵寺24次調査地

所在地 松山市来住町819
期間 平成6年11月1日～
平成7年3月31日
面積 408m²
担当 橋本雄一・相原秀仁



図1 調査地位置図

経過 昨年度の寺域確認調査の結果、塔基壇の南西区域は、中世以降の開発によって大幅に削平されていることが判明したが、基壇南東部の水田を改めて調査する事によって、寺域南部における寺関連遺構の存在の確認を目指すこととなった。当該箇所はこの寺が法隆寺式の伽藍配置をとるならば、中門が位置することが想定される場所にあたっており、3次調査の際に、若干の遺構が確認されている。調査は国庫補助事業の学術調査として実施された。

遺構・遺物 調査の結果、一帯は中世の屋敷地の造営によって大幅に地下げが行われており、寺院に関連すると断定できる遺構は全く確認されなかった。唯一、SK010などの北西部に位置する浅い土坑から、来住庵寺で使用されていたと考えられる平瓦の破片が多く出土したが、その正確な年代は判っていない。

屋敷地は、3次調査の際に確認済みの東西に流れる溝とそれに連結するSD002によって囲われている。この区画溝の内側には、多段階に渡るL字形の柵列で囲われた空間があり、その内側（調査区南西部）に、掘立柱建物が位置している。柵列と外郭の溝との間には、幅7ないし9m程度の遺構密度が低い「裏庭の空間」があり、そこには井戸が1基位置している。柵列は最低でも3ないし4段階に及ぶもので、これと同様に外郭の区画溝も計4本確認されている。建物については、純柱の建物の一部を検出したものと理解している。古墳時代に属することが判明している掘立001を除く4棟すべてが同一時期に並存していたとは考えにくいことから、建物についても、柵列や溝と同様に、複数の段階に渡って継続的に利用されていたものと考えられる。なお、井戸に隣接してSK001が位置しているが、井戸とは別段階のものと考えられる。

出土遺物は、来住庵寺の瓦と、弥生時代の竪穴住居址であるSB001・002・003などから少量の弥生土器が出土している他は、すべて中世段階のものである。1は掘立010の柱穴から出土した皿である。井戸下層出土の4と同様、回転糸切り技法によって切り離されている。2は木棺の棺材の一部や粘土化した人骨の一部を確認したSK001の棺外墓坑底に伏せた状態で置かれていた土師器の环である。5は一部に朱が付着している宝珠、6は不明木製品、7と8は桶であるが、これは約13個体分が出土している。このほか、井戸からは桶用の竹ひごの一部や桃・梅の核多数、種子類、昆虫の遺体の一部、正月の注連飾りなどに使われたと考えられるウラジロが7個体程度出土している。また、洪武通宝をはじめとする渡来銭が計7枚出土したが、これらはいずれも柵列の内側区域付近から出土したもので、その一部は、掘立柱建物の柱穴や井戸の中から出土している。この他、青磁の破片が出土しているが、極少量でしかない。以上述べた状況から、屋敷地の年代は、中世後半期にあたるものと考えている。

永住庵寺24次調査地

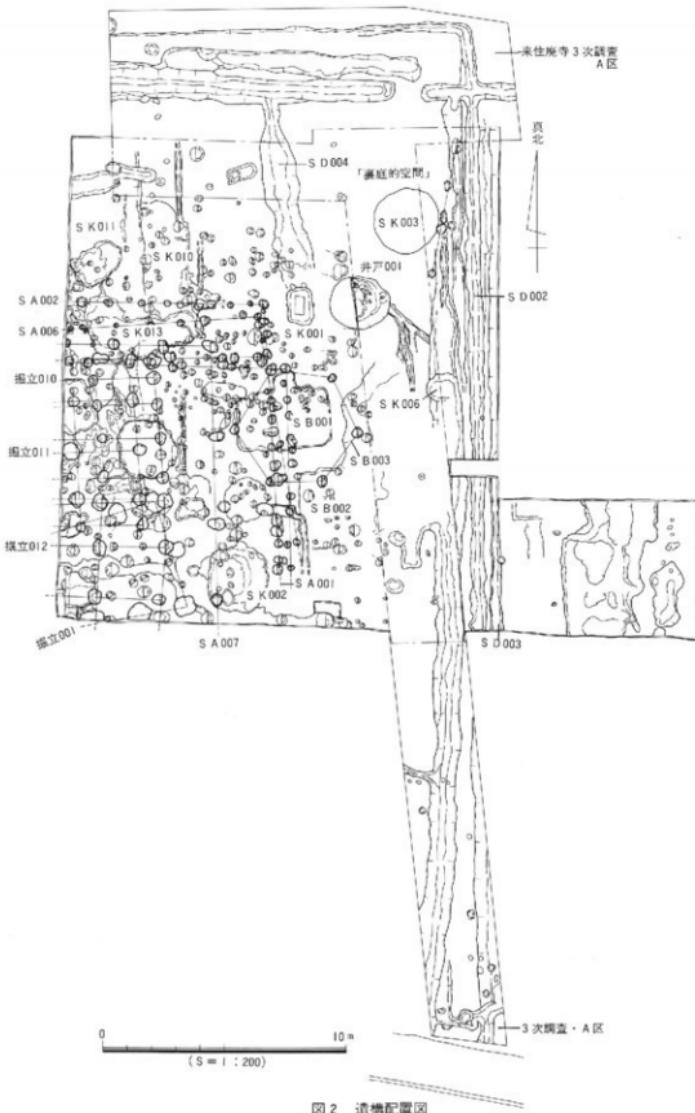


図2 造構配置図

来住庵寺24次調査地

小結 今回の発掘調査によって、中世段階の開発によって、塔基壇南面を含む来住庵寺の南半部が、大幅に削られていたことが判明した。今後の調査にあたっては、中世以降の土地の開発行為の存在を念頭に置いて作業を進めていく必要があるといえる。



図3 調査区位置図 (50mメッシュ)

来住庵寺24次調査地

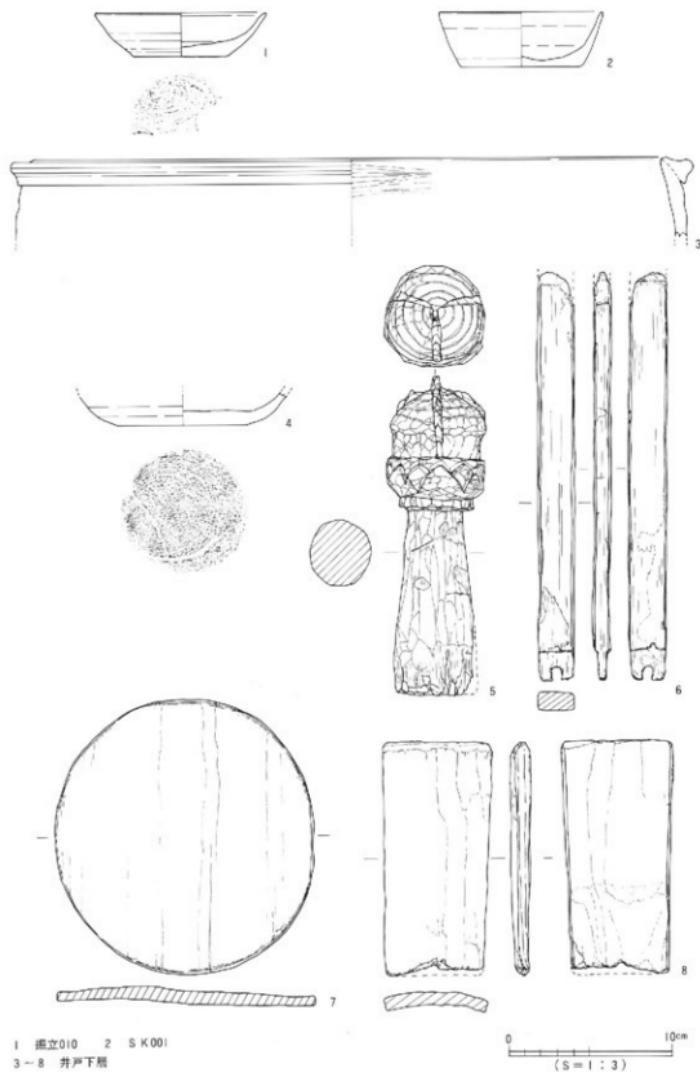


図4 出土遺物実測図

来住庵寺24次調査地



写真1 完掘状況（南より）



写真2 S K010~013瓦片出土状況（北東より）



写真3 SK001木棺・人骨検出状況（南より）

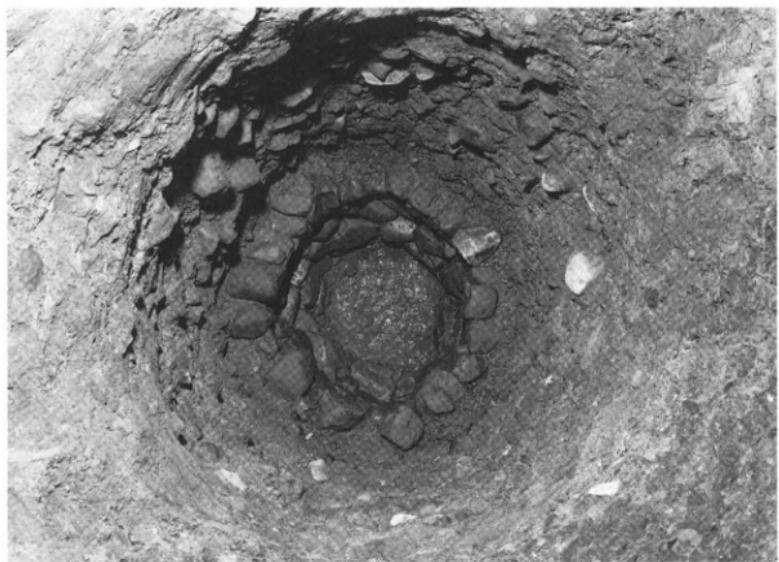


写真4 井戸001完掘状況（東より）

キシマチ 来住町遺跡 5次調査地

所在地 松山市来住町517-1・524-2
期間 平成6年7月27日～
同年10月31日
面積 807.43m²
担当 橋本雄一・相原秀仁



図1 調査地位図

経過 当遺跡は、国指定史跡である来住庵寺の東方数百メートルに位置している。周辺では、過去に4次にわたる本格調査の他、試掘調査もたびたび実施されており、7世紀後半期の官衙関連施設が集中して立地する来住台地中心部の東部地域における状況の把握が行われてきた。今回の発掘調査は、4次調査の南側隣接地における個人住宅の建設に先立って、国庫補助事業として実施された。

遺構・遺物 調査区内地形は、東と西とで大きく異なっている。西部は微高地になっており、居住空間として利用されていたと考えられる。一方、東は深い落ち込み状の地形が広がっている。微高地上では2棟の掘立柱建物を確認した。掘立01は調査区外に継ぐが、おそらく2間×3間の規模であろうと考えられる。掘立02と密接な関わりがあることが想定されるが、柱穴の一部が接近しすぎていることから、同時に併存した可能性は低い。来住台地周辺では、このように主軸が真北よりもやや西に振るこの種の形状をとる建物の出現時期が、7世紀半ばころであると推定されている。したがって、官衙的施設が立地する中心部を若干東にはずれたこの地域には、このような建物から成る集落が形成されていたものと考えられる。

東の落ち込み部分については、最下面を除いて水が流れたことを想定し得る状況にはなかったが、ひとまず自然流路（S R）であると考えておきたい。S Rの中段付近と最下面には、S D03と04が掘り込まれ、このうちS D04には砂が堆積していた。ともに人為的に掘られた水路であろうと考えられるが、時期は不明である。また、調査区北東部の最も深い地点においては、地山層上面にめり込んだ人の足跡を多数検出した。仮にこの遺構が自然地形であるとしても、足跡や溝の存在から、人の手が加わっていたものと考えられる。堆積土の上層にあたるV層上面付近から、来住庵寺において使用されていたと考えられる平瓦の破片多数がまとまって出土したことから、寺の創建段階以前にある程度（V層）まで堆積が進み、最終的には創建後のある段階に入為的に寄土される形で、埋められたものと推測される。瓦の存在は、その際の土が、寺が位置する西方より運ばれた可能性を示唆するものと言え、客土は水田の開発に関わって実施されたものと考えておきたい。

遺物は、その大半がS R01出土のものである。瓦はS Rの北西部、V層の上面ないしIV層下部から出土した。したがって、V層出土の遺物とは区別して扱ってよいと考えられる。その大半が平瓦の破片で、軒瓦は含まれていない。瓦の表面は網目叩きで仕上げられており、格子目のものは破片が一点だけ確認された。

1～18はS R01のV層出土の須恵器である。19～22は同様であるが、北壁沿いのトレンチから出土したもので層位関係は不明である。いずれも6世紀～8世紀のものである。15は台付き壺の一部、21

米住町遺跡 5 次洞在地

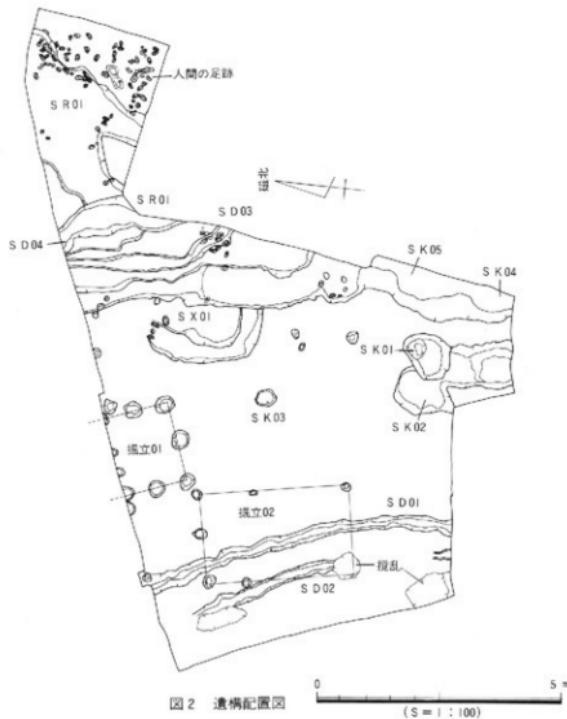


図2 遺構配置図 (S = 1 : 100)



- | | |
|-------------------------|------------------|
| I 層 造成土(アンダー及び真砂土) | IV 層 明黄褐色粘質土(地山) |
| II-a 層 灰オリーブ色粘質土(耕作土上層) | V 层 灰黃褐色土(地山) |
| II-b 层 オリーブ黄色粘質土(耕作土下層) | VI 层 灰黃色粘質土(地山) |
| III 层 褐灰色粘質土(旧耕作土層) | VII 层 灰黃色土(地山) |
| IV 层 赤灰色粘質土(旧耕作土層) | X 层 灰黃褐色砂礫(地山) |
| V 层 灰色土(S R01上層) | XI 层 明黄褐色砂礫(地山) |
| VI 层 黑褐色土(S R01下層) | |

図3 北壁東部土層図

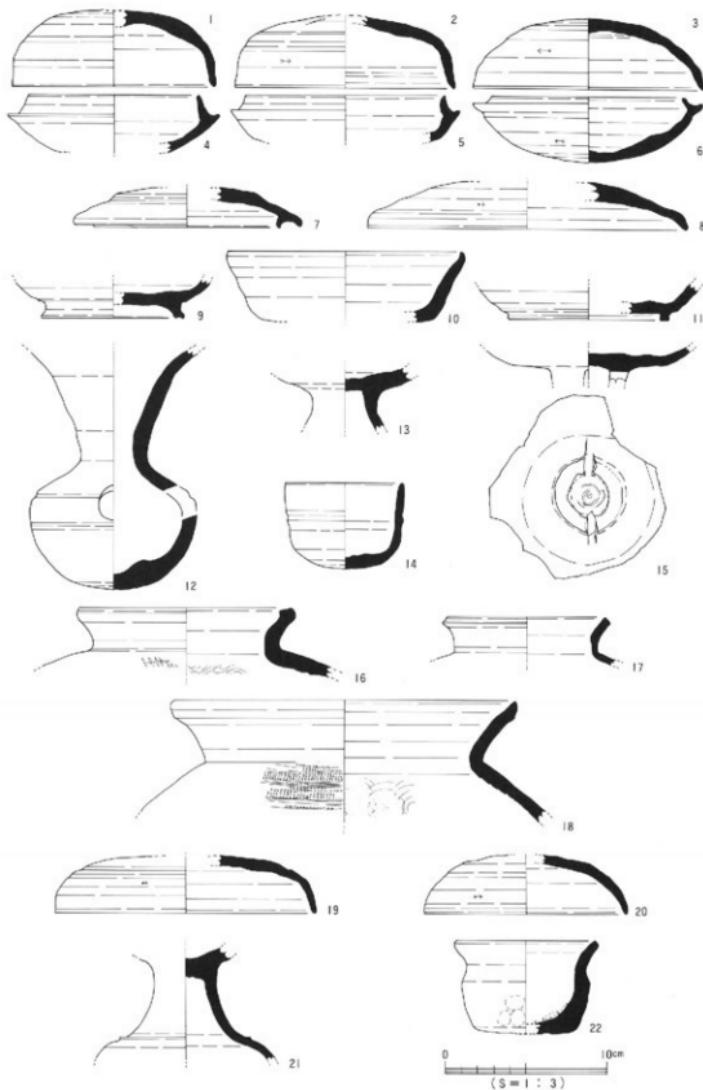


図4 出土遺物実測図

は短脚の高杯の脚部であると考えられる。

小結 本調査によって、調査区付近を境として、西と東では地形に大きな違いがある事実を再確認することができた。今次の調査区よりもやや南東に位置する1次調査地においても、S R01に近似した低地が確認されており、ある程度東の地域までこの種の地形が広がることが想定される。また、現況でも、北に位置する水田面のレベルが低い状況を確認できることから、この地が、官衙関係の主要遺構が密集して展開する遺跡群中心部の東端にあたるものと理解しておきたい。想定の域を出ないが、S R01において人間活動の痕跡が確認された以上、当該期に、東に広がる低地部を水田として利用していたことも考えておく必要もあるう。今次の調査においては充分にこの点を意識して調査を進めたとは言い難い状況にある。今後、隣接地において調査が実施される際には、注意したい。



写真1 振立001から S R001 (西より)

キタウメモトアクリヤダニ 北梅本惡社谷遺跡

所在地 松山市北梅本町甲695外

期 間 平成6年5月30日～

同年6月30日

面 積 900m²

担 当 田城武志・山本健一



図1 調査地位図

経過 本調査地は、松山市北梅本町甲695外における、松山市農林土木課による農道新設工事に先立つて実施した事前調査である。調査地は、松山平野東部の小野谷東部に隣接する標高150mの惡社谷に位置する。この小野谷一帯には、既に調査されている駒馬蛇ヶ瀬1号窯を含める小野谷古窯址群が分布しており、また調査地周辺接地においても枝葉下池にて窯址1基、惡社谷にて灰原を2箇所で確認している。これらのことにより、窯址、灰原、工房址などの確認を目的として調査を行った。

遺構・遺物 調査区は道路新設のため幅6m、全長150mと細長く、また既存農道は生活道路として利用されていること等により調査範囲が限定された。よってトレント（T）調査を行うこととなった。調査の結果、T1～T9・T12においては現在の耕作地造成による掘削等の影響を受けしており、遺構・包含層等の検出はされなかったが、耕作土中より須恵器を採取した。なおT10では旧地形間部、T11では遺物包含層を検出している。

T10は調査地東部既存農道の三叉路南側の落ち込み部に位置する。T9～T12間は農道より南へ一段落ち込む段状地形を呈しており、比高差はT10とT11では約4mを測る。層位は、第1層耕作土、第2層耕作土床土、第3層造成土、第4層旧耕作土、第5層造成土、第6層暗青灰色粘性土（やや黒味を帯びる）、第7層黄色砂礫層（径60cm大礫石混）である。基本層位の第1層が第1層と第4層に、第2層が第2層、第3層が第3層と第5層に相当する。第6層と第7層はT10のみの検出である。第6層の暗青灰色粘性土は5～15cmの堆積である。やや炭黒い土中には炭化物と灰色粘性土が混入しているため木炭灰が堆積したものと見られる。第7層の黄色砂礫層は、砂と礫の混入から水性堆積層と思われる。出土する礫石（60cm以上）が大きいことや出水が大量であったため下位層は確認していない。第7層上面に第6層が堆積していること、トレント中央部で第7層上面が東方向へ落ち込んでいることからして、第7層上面が旧地形を呈するものと思われる。

小結 今回の調査において、調査地のほとんどが近現代における耕作地造成による掘削等の影響を受けており、調査の目的である窯址、灰原、工房址などの遺構の検出には至らなかった。しかし、T10・T11において古墳時代または古代の遺物包含層や旧地形の確認ができたこと、耕作土中から須恵器片が採集されていることなどから調査地周辺には遺構・遺物が存在しているものと考えられる。

北梅本惡社谷遺跡

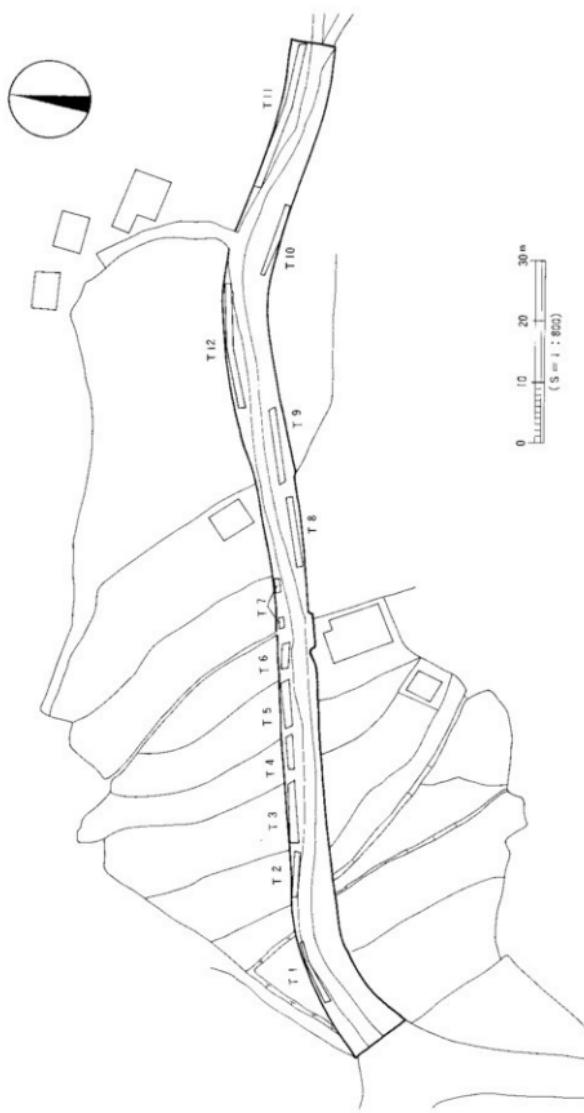


図2 調査地測量図

北梅本地社谷造跡

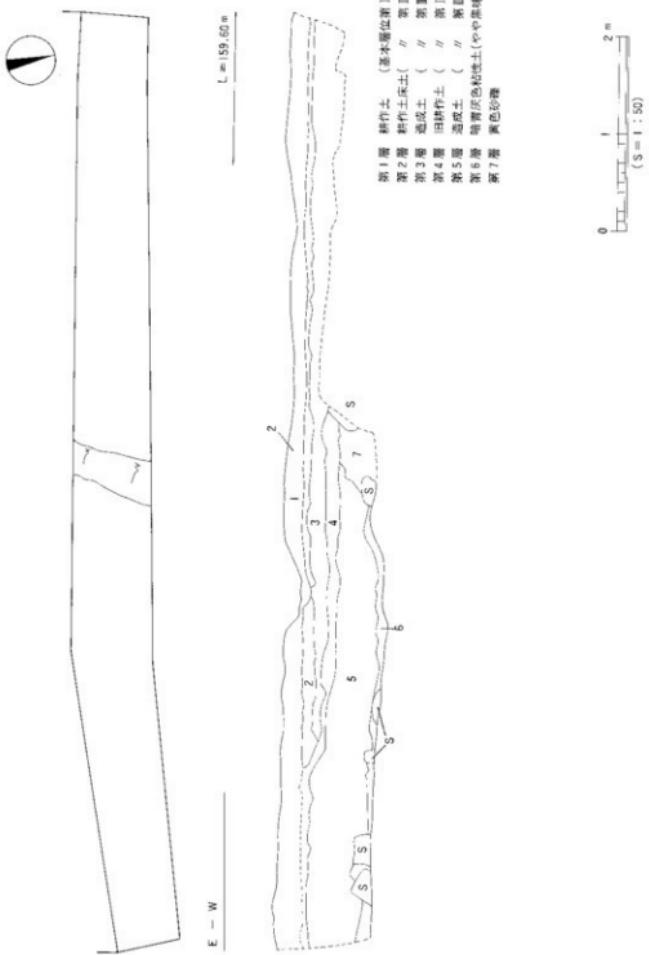


図3 T10 平・断面図

北梅木悪社谷遺跡



写真1 調査地遠景（北より）



写真2 T10土層（北より）

ハザイケ池古墳

所在地 松山市北梅本町甲2455

期間 平成5年11月15日～

調査継続中

面積 2,500m²

担当 栗田茂敏・加島次郎・大森一成



図1 調査位置図

経過 楽佐池古墳は、松山市北梅本町の通称小山と呼ばれている標高121mの丘陵上にある。古墳西方250mを南西方向に流れる小野川は、高繩山系南西面、小屋畔480mに源を発し、松山平野2大河川のひとつである石手川に合流する。この小野川によって開析された小野谷の丘陵麓には、駄馬窓跡群・悪社谷窓跡群などに代表される7世紀代を中心とした須恵器窓跡群が存在し、松山平野東古窓跡群と総称されている。また、丘陵上には潮見山古墳群・明神ヶ鼻古墳群など多くの古墳が分布しており、数基の開口している横穴式石室もみることができる。

古墳は、1992年（平成4）年6月24日、この丘陵を開墾中の当時の地権者により発見された。発見後の通報による現地調査の結果、主体部は横穴式石室で、バックホールによって動かされた天井石の一枚が玄室内に倒れ込んだ状況であることがわかった。この天井石は、幸い玄室床面までは落ち込んでおらず、移動により生じた隙間からの玄室内部の観察によれば、この際に多量の土砂や壁体の石材の一部が玄室閉塞部寄りに流入している状況ではあったが、奥壁付近は無傷に近く、奥壁に沿って子持高窓を中心とした供獻上器が整然と配置され、石室長軸に平行に、2基の木棺と思われる木質が比較的良好な状態で遺存している様子が観察された。

木棺の遺存する未盜掘墳の可能性が高い、きわめて重要な古墳との認識に立ち、松山市は古墳の存する丘陵を松山市有地として取得する一方、総勢8名からなる調査委員会を組織し、調査委員会の指導のもと、平成5年11月より国庫補助事業として発掘調査を実施することになった。

発掘調査は、石室内部の木質系遺物の処置が当面最も緊急を要すると判断されたため、石室内調査を最優先して実施した。墳丘調査は、この石室内調査終了後に引き続いて行われている。

遺構・遺物 主体部である横穴式石室は、予めおおよその主軸方向・閉塞位置が把握されているため、この閉塞部前面に南北4m、東西6mの調査区を設定し、この部分の墳丘封土の状況を把握するところから調査を開始した。この結果、墳丘封土上面から溝状に掘り込まれ、埋め戻された墓道痕跡（墓道2）と、この墓道の外側で、これよりも相対的に古い別の墓道（墓道1）を確認することができた。なお、その後の墳丘調査の結果、これら2本の墓道を含めた、都合3回にわたる石室前面部墳丘の改修痕跡があることが判明している。これら埋葬行為に伴う改修痕跡のはか、この調査区内での擾乱・盜掘の痕跡はみられず、最終埋葬以降この部分からの石室内への侵入はなかったことが明確となった。石室壁体にも擾乱や積み直しの痕跡は無く、古墳は未盜掘であることが確定した。

石室は塊石積み上げによる両袖型の横穴式石室である。袖部にも立柱は用いられず、やはり塊石を積み上げている。玄室へは、玄門部の2段の段を降りて進入する構造となっている。閉塞はこの玄門

部の外側の段の部分に塊石を積み上げて行われ、この閉塞の補助のための短い壁が外開きにとりつく。天井には4枚の天井石が架けられ、これらの天井よりも0.2m低くなる樋石が玄門部に1枚架かり、閉塞部には天井は架からない。古墳発見時に原位置を移動したのは、奥側から3枚目のものである。閉塞は塊石小口積みによって7段程度積み上げられているが、墓道は閉塞石の、下から3段目の高さにとりついている。最終埋葬時には、これより上の4段分を取り外して積み直している。

石室全長は4m、玄室長2.8m、幅1.4m、高さ1.8mで、両側壁は中ほどから強く持ち送られ、最終的には天井部での幅0.5m程度にまで縮約される。玄門部は幅0.95m、高さ1mで、この部分に高さ0.4mの段、さらにこの段から0.2m外側に高さ0.2mの2段目の段があり、この段上での内面に面をそろえた閉塞石が積み上げられる。玄室床面は最大から20cmの大判砾を敷きつめた砾床となっている。

玄室にはその長軸方向に並列して2基の木製の棺が配置されており、入り口よりみて左側をA棺、右側をB棺としている。供献遺物は、奥壁部に子持高環を中心として左側に有蓋短頭壺2個体、右側に有蓋短頭壺2個体、雁1点、鉄鏃5点、鉄斧1点、鹿角装鉄器1点、左袖部に有蓋短頭壺1個体、A棺内手前の平面位置で坏身2点、环壺1個体、刀子1点、B棺上で鹿角装刀子が確認されている。これらの須恵器は、6世紀中後時代のものである。

A棺が小口板や、側板を伴った箱型の形狀をなしたものであるのに対して、B棺は1枚の板である。A棺には小口板が奥壁側と手前に1枚ずつ遺存しているが、この小口板基底部間の距離は190cmを測る。特に奥側の小口板は遺存状況が良好で、そのサイズは37×23cm、厚さ3cmを測る。この小口板の側板に接する両木口には長さ6cm、幅4cmの凸凹がつくり出してあり、さらにこの柄には1cm角の穴が穿たれ、この穴に貫通する木栓が遺存している。この小口板に組み合わされる側板と考えられる部材は、厚さ2.5~3cmで、枘穴の刺り込みを持つ。これらのことから、小口板と側板は枘組みによって組まれ、側板の外側で木栓によって固定されていたものと考えられる。ところで、A棺の小口板上面木口や、他の部材の端部周辺には鉄釘などの緊結金具の痕跡はみられず、本来、小口板と側板とを組んだものと、底、蓋の3つのパーツをそれぞれ緊結しないで箱形の形狀に組み合わせていたものと考えられる。このA棺の奥壁側小口板周辺には一體の頭骨片が散乱しており、また平面棺内位置にも人骨片が散見され、この棺内に一體の埋葬（A人骨）が想定される。

B棺は長さ190cm、幅45cm、厚さ4cmの1枚の板で、板上にはかなり風化は進行しているものの、一體分の人骨（B人骨）が、ほぼ原位置を保って載っている。この板上奥壁側に置かれた自然石上には、頭骨片が付着しており、枕として置いたものである。さらに、玄室左奥部の短頭壺左側の狭い空間に頭を置き、左壁に沿った約1mの間に、集骨された人骨片の集中（C人骨）がみられる。

その他、主な出土遺物としては、A棺の両小口板直下出土の紐、B・C人骨の一部に付着した布の小片がある。また、B人骨左腰部に着装された鹿角装刀子にも布の小片が付着して検出された。供献土器には有蓋短頭壺が多いが、このうちの1点の内部には二枚貝の片面が内面を上にして納められた。奥壁部の中心に位置する子持高環の脚部内面からはイネ科植物の茎束が出土した。そのほか、玉・環類等の装飾品の出土はみられなかった。

小結　葉佐池古墳は、出土した木棺のみにとどまらず、遺存良好な古墳・墓道と石室との関係、自然科学的な分析、その他を含めて、総合的な調査が絶密に行われ、多くの成果を挙げており、古代の葬法、横穴式石室墳研究の好事例となろう。

【文献】『愛媛県松山市「葉佐池古墳」—木棺がこされた横穴式石室の調査—』松山市教育委員会1994

葉佐池古墳

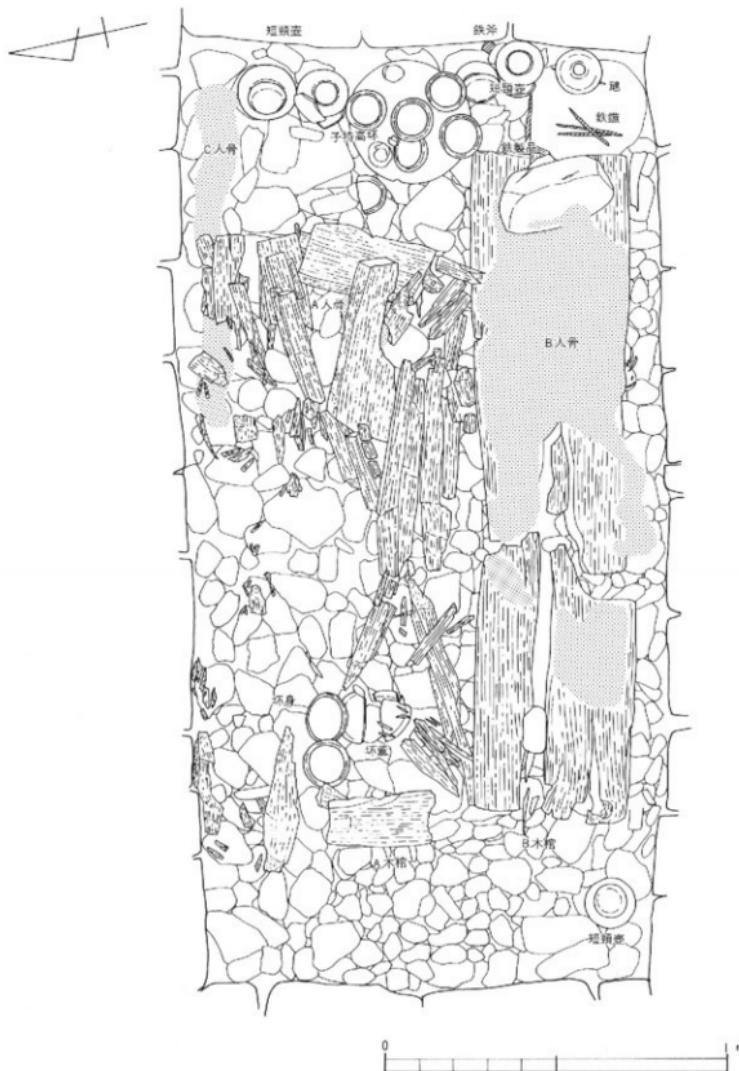


図2 木棺と遺物の配置



写真1 奥壁部の供献土器（西より）



写真2 A木棺奥側の小口板（東より）

松山市埋蔵文化財調査関係資料

例言

1. 本編は、松山市教育委員会文化教育課・(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが実施した埋蔵文化財確認調査資料である。
2. 今回は平成6年度(申請番号1号～232号、平成6年4月1日～平成7年3月31日迄)の資料を取り扱う。なお、平成5年度以前の資料については、「松山市文化財調査年報I(昭和60～61年度)」「同年報II(昭和62～63年度)」「同年報III(平成元年～2年度)」「同年報IV(平成2年～3年度)」「同年報V(平成3年～4年度)」「同年報VI(平成4年～5年度)」を参照されたい。
3. 資料作成(一覧表及び付録図)は、武正良浩、白石公信、酒井直哉、後藤公克が行った。
4. 表中の番号は、埋蔵文化財確認願いの申請番号に順するものである。また、本格調査については平成6年度に行った調査を取り扱う。
5. 付録図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図三津浜・松山北部・都中・松山南部を使用した。
6. 一覧の略記について

①面積：調査対象面積、小数点以下四捨五入。②標高：地表面、()調査区内平均値。③調査目的：公=施主公共団体、私=施主一般。④調査方法：空白は未調査等

平成6年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺 物	備 考
1	久米田町676-3	237	47.90	私	試掘			
2	船ヶ谷町29-1他1筆	323	18.70	私	試掘			
3	平井町甲2249-1	945	57.70	私	試掘			
4	平井町225	588	70.50	私	試掘			
5	平井町1226-1	803	70.70	私	試掘			
6	平井町1707-2	495	73.90	私	試掘			
7	天山町287-3他6筆	1,373		私	立会			
8	今在家町440-1他3筆	1,857	29.50	私	試掘			
9	朝美1丁目1271-1	285	13.75	私	試掘			
10	小坂4丁目1-1	687	25.45	私	試掘			
11	石風呂町577	869		私	試掘			
12	朝生田町307-4	137	19.80	私	試掘			
13	平井町甲3157-39	206	49.60	私	試掘			
14	桑原7丁目448-1他1筆	416	31.75	私	試掘			
15	桑原5丁目9-38	237	34.90	私	試掘			
16	道後北代10-41	97	32.90	私	試掘			
17	北斎院町434	331	8.00	私	試掘			

No	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺 物	備 考
18	安城寺町600-5	130	8.10	私	試掘			
19	米住町474	507	40.05	私	試掘			
20	北井門町276他1筆	1,667	23.70	私	試掘			
21	北久米町468-1	549	29.95	私	試掘			
22	福音寺町533-1他2筆	1,845	25.80	私	試掘			本格調査委 筋造J遺跡
23	木犀町2丁目1-26	268	29.20	私	試掘			
24	清水町2丁目19-5	176	22.60	私	試掘			
25	南久米町363-2	652	36.65	私	試掘			
26	小坂2丁目216-2	243		私	試掘			
27	今在家町280-1	142	30.40	私	試掘			
28	朝生田町472-2	224	18.60	私	試掘			
29	桑原6丁目731他3筆	749	32.95	私	試掘			
30	祝谷5丁目758-1	246		私	試掘			
31	道後北代175-3他2筆	616	34.15	私	試掘			
32	東垣生町888-7	149		私	立会			
33	清水町2丁目21-3	255	23.60	私	試掘			
34	道後一萬771-11	216		私	立会			
35	今在家町72番の東部他1筆	624	31.95	私	試掘			
36	今在家町72-1の一部	500	31.95	私	試掘			
37	北梅木町	1,120	123.25	公	試掘			
38	平井町甲686-3他1筆	436	76.25	私	試掘			
39	衣山2丁目353番3	116	24.30	私	試掘			
40	山越3丁目814-2,-5	162	20.50	私	試掘			
41	祝谷東町乙812-7	245	107.00	私	試掘			
42	東本1丁目101-1他10筆	6,293	33.10	私	試掘			
43	平井町1341-1他6筆	3,527	71.20	私	試掘			
44	山西町字城ノ山69-1他1筆	3,541	31.50	私	試掘			
45	平井町2495	528	64.70	私	試掘			
46	平井町甲2163-3他1筆	297	61.00	私	試掘			
47	小坂4丁目399-1	790		私	既済			H4-11にて完了済み
48	北久米町860-15,-16	319	28.70	私	試掘			
49	山越2丁目甲20-5	108	18.05	私	試掘			
50	別府町39-1	265		私	既済			H2-87にて試掘完了済み

No	所 在 地	面積 (m ²)	標高 (m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺 物	備 考
51	福寺2丁目456-3	261	51.30	私	試掘			
52	桑原6丁目1-5	332	32.60	私	試掘			
53	石風呂町甲1079	799		私	既済			H2-29にて本課立会済み
54	天山町287-1, 288-1	234		私	立会			
55	北斎院町1000-3, 4, 5	439	8.15	私	試掘			
56	朝美町2丁目1194	215	15.70	私	試掘			
57	水泥町336	548	48.60	私	試掘			
58	西石井町29-5	143	21.60	私	試掘			
59	平和通3丁目1-10他2筆	980	27.70	私	試掘			
60	南斎院町1338-65	564		私	立会			
61	朝牛田町488-1	383	18.90	私	試掘			
62	雀野町			公	試掘			県教育委員会にて処理
63	桑原2丁目7-20	411	37.90	私	試掘			
64	安城寺町1417-3	405	3.70	私	試掘			
65	北久米町902	19		私	木			
66	森松町849-1	620	34.20	私	試掘			
67	古三津3丁目1011他13筆	2,664	11.75	私	試掘			
68	来住町763-778	525	36.30	公	立会			
69	来住町616-625	105	36.60	公	立会			
70	来住町908-1	1,007	37.35	私	試掘			本格調査要 十盛りにて開発許可
71	平井町平2090-3	503	59.70	私	試掘			
72	南江戸3丁目912他5筆	6,319	12.80	私	試掘	溝・土坑	須恵器・土器類 ・陶短器	本格調査要
73	久米津田町950-1	587	45.70	私	試掘			
74	東本1丁目96-1	94	32.80	私	試掘			
75	衣山2丁目597-1	386	31.70	私	試掘			
76	久米津田町1124-1	325	43.80	私	試掘			
77	北斎院町242-1	281	8.10	私	試掘			
78	朝美1丁目1274-1	508	14.40	私	試掘			
79	北橘木町甲3280-15	202	75.20	私	試掘			
80	辻町223-1	771	14.40	私	試掘			
81	越智町293他2筆	2,475	24.30	私	試掘			
82	辻町255-3	866	14.10	私	試掘			
83	樽味4丁目206-2	353	39.10	私	試掘			

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺 物	備 考
84	枝松4丁目242-1他1筆	517	30.90	公	試掘	溝・土坑	生土器・土器	本格調査要 枝松道路5次調査
85	米住町493他1筆	286	40.90	私	試掘			
86	溝辺町乙6-6他2筆	504	75.30	私	試掘			
87	天山町364-2	240	37.20	私	試掘			
88	桑原2丁目975-1	822	38.20	私	試掘			
89	北斎院町404-1	224	8.35	私	試掘			
90	南江戸3丁目813-6他2筆	1,450		私	既掘			古墳ゴウラ遺跡4次調査
91	山西町791	978	3.40	私	試掘			
92	鷹子町650-1	983	47.80	私	試掘	溝・土坑	生土器・須恵器	本格調査要 鷹子新堀遺跡3次調査
93	鷹子町51,84	674	42.70	私	試掘			
94	北久米町809-2	983	28.58	私	試掘			
95	平井町2256-7	138	57.10	私	試掘			
96	森松町130,131	950	35.70	私	試掘			
97	松末2丁目20	369	27.25	私	試掘			
98	桑原2丁目977-1他4筆	786	38.25	私	試掘			
99	天山町214-7	166	20.40	私	試掘			
100	立花6丁目325-4	494	21.05	私	試掘			
101	太山寺町甲563-2他2筆	315	2.70	私	試掘			
102	桑原1丁目5-39	175	38.00	私	試掘			
103	衣山3丁目487	204	30.45	私	試掘			
104	久万ノ台792,795	458	12.80	私	試掘			
105	北斎院町391	542	9.00	私	試掘			
106	御幸2丁目9-15	116	24.70	私	試掘			
107	平井町甲983-5	499	79.05	私	試掘			
108	北斎院町607-1	691	15.20	私	試掘			
109	北久米町462-1,463-1	245	33.20	私	試掘			
110	立花6丁目389-5	99	20.45	私	試掘			
111	久米塙町887,888	373	45.30	私	試掘			
112	朝美1丁目1274-1	508		私	未			申請取り下げ
113	新浜町	60		公	未			
114	今在家町89-1,90	917	31.05	私	試掘			
115	天山町239-6	443	20.75	私	試掘			
116	姫原2丁目中274-1他2筆	1,684	19.40	私	試掘	溝・包含層	生土器・貝殻	本格調査要 姫原遺跡

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺 物	備 考
117	祝谷5丁目669-2	194	60.00	私	試掘			
118	東垣生町	1,872	4.00	公	試掘			
119	道後町2丁目989-2	396	35.50	私	試掘			
120	桑原4丁目649-5, 6	111	37.60	私	試掘			
121	北斎院町	218	7.50	公	立会			
122	西石井町9	200		公	未			
123	朝美町2丁目8-31	115	16.35	私	試掘			
124	南江戸4丁目1099	1,259		私	既済			H5-188にて試掘済
125	鷹子町186-3	499	48.30	私	試掘			
126	衣山5丁目1515-10他5筆	3,176		私	踏査			
127	衣山3丁目9-28~482先	49	28.40	私	立会			
128	太山寺町甲565-1	389		私	取消			H6-101に差し替え
129	南久米町24-61	400	50.30	私	試掘			
130	福音寺町739-1他2筆	1,796	22.40	私	試掘			
131	南久米町435-2	165	35.90	私	試掘			
132	南十帖町284-2, 3	485	38.15	私	試掘			
133	南江戸6丁目1363-1他2筆	269	15.65	私	試掘			
134	別府町413~412先	312	4.20	公	試掘			
135	畠寺3丁目358-1他1筆	1,708	32.00	私	試掘			
136	鷹子町57-3	312	43.00	私	試掘			
137	権現町大平	301		公	未			
138	祝谷東町	291	58.00	公	立会			
139	畠寺3丁目341-4, -9	205	33.40	私	試掘			
140	久木蓮田町846-1	242	47.80	私	試掘			
141	久木蓮田町870-9	212	45.90	私	試掘			
142	北梅本町甲3231	502	78.20	私	試掘			
143	北梅本町甲3232	364	78.20	私	試掘			
144	朝生田町313-2	500	19.70	私	試掘			
145	道後一万783-4	154	33.40	私	試掘			
146	森松町915	883	33.80	私	試掘			
147	北梅本町	560	113.90	公	試掘			
148	南久米町723-1の一部	958	39.00	私	試掘	柱穴・土坑	弥生・土器	本施設余要 久米島古跡2大
149	祝谷5丁目709-2	212	38.50	私	試掘			

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺 物	備 考
150	溝辺町乙8-41	23		私	立会			
151	桑原7丁目433-1,-5	916	32.20	私	試掘			
152	南久米町409-6	153	36.35	私	試掘			
153	山越2丁目4-18	132	18.00	私	試掘			
154	北久米町694-1	40	31.50	私	試掘			
155	別府町乙26-1,-6	114	8.30	私	試掘			
156	朝美町1丁目1324	181	15.00	私	試掘			
157	西石井町317-1	910	19.95	私	試掘	寄棺墓・溝 井生上器 土器	本格調査要 申請取り下げ	
158	西石井町222-1	188	20.35	私	試掘			
159	来往町539-2	165	40.05	私	試掘			
160	北久米町454-1	474	33.40	私	試掘			
161	山越1丁目266-8	165	17.50	私	試掘			
162	山越2丁目51-1~57-5先	181	17.00	公	立会			
163	鷹子町44-1,45-3	406	41.85	私	試掘			
164	南久米町381-1,-2	658	38.85	私	試掘			
165	鷹子町222-1	900	48.80	私	試掘			
166	辻町233	310	13.00	私	試掘			
167	来往町233-1	791	41.25	私	試掘			
168	鷹子町720	198	44.05	私	試掘			
169	今在家町187-1他2筆	7,797	31.05	私	試掘			
170	博味4丁目200-2他2筆	467	40.60	私	試掘			
171	北齋院町253-1	862	8.85	私	試掘			
172	北齋院町253-2	158	8.80	私	試掘			
173	来往町260	680	40.25	私	試掘			
174	北齋院町1242	38	14.00	私	試掘			
175	北齋院町1249-2	76	12.20	私	試掘			
176	北井門町281-2,-5,-6	555		私	未		申請取り下げ	
177	平井町甲1328-1他2筆	103		私	立会			
178	西石井町4-1	884	21.50	公	試掘	柱穴・溝 井生上器 土器	本格調査要	
179	北齋院町1250-14	436	8.00	私	試掘			
180	北齋院町1250-13他1筆	463	9.80	私	試掘			
181	北齋院町1248-2	28	7.90	私	試掘			
182	北齋院町1247-2	89	13.10	私	試掘			

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺 物	備 考
183	北斎院町1232-1	459	9.80	私	試掘			
184	朝生出町433-1	1,261	17.70	私	試掘			
185	北梅本町乙690-2外	2,280		公	未			
186	太山寺町乙694-2外	2,500		公	未			
187	南久米町723-1外10筆	996	38.50	私	試掘	柱穴・溝	弥生土器	本格調査要 久米高辻24次
188	平井町甲1496-1	333	68.50	私	試掘			
189	北井門町275	1,282	23.45	私	試掘			
190	桑原2丁目882-1,-2	873	37.50	私	試掘			
191	福音寺町541-1,-9	241	25.00	私	試掘			
192	桑原3丁目923-1~929-1先	141	38.60	公	立会			
193	桑原5丁目9~10先	512		公	未			
194	山越2丁目27-11	136	16.70	私	試掘			
195	南久米町530-4	466	31.25	私	試掘			
196	東本1丁目114	128	34.00	私	試掘			
197	平井町甲2389施2筆	1,896	59.45	私	試掘			
198	桑原4丁目417番7	286	40.05	私	試掘			
199	南久米町乙1-3,-4	187	48.30	私	試掘			
200	北久米町703	254	31.80	私	試掘			
201	福寺3丁目342	449	31.70	私	試掘			
202	南久米町658-1	291	40.50	私	試掘			
203	山越2丁目3-4	116	26.40	私	試掘			
204	南久米町450	130	35.80	私	試掘			
205	朝生出町313-1他2筆	1,534		私	立会			
206	上野町乙92,89	181	61.95	私	試掘			
207	上野町乙86-4,-5	495	58.75	私	試掘			
208	小坂5丁目372-1	183	23.95	私	試掘			
209	北井門町281-2他2筆	555	23.40	私	試掘			
210	一番町3丁目2-1-1	485		私	未			
211	占三津3丁目1002-2他2筆	41		私	立会			
212	山越1丁目286-7,-8	153	18.70	私	試掘			
213	谷町371	701	16.50	私	試掘	包含層・溝 弥生土器 土器	本格調査要	
214	岩崎2丁目・持田1丁目	13,000		公	未			
215	水泥町1350-2~1351	2,390		公	未			

No	所 在 地	面積(㎡)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺 物	備 考
216	朝美1丁目6-6	362	22.60	私	試掘			
217	西長戸町912-1	790	9.20	私	試掘			
218	北久米町481-1	650	33.60	私	試掘			
219	衣山2丁目329-2, -6	423	18.30	私	試掘			
220	平井町甲1847-4	492	77.00	私	試掘			
221	水堀町1282-1外34筆	18,962		私	未			
222	太山寺町333-1	34,159		公	未			
223	山越2丁目47-1	191	19.85	私	試掘			
224	恵原町乙162-1他3筆	2,786	75.00	私	試掘			
225	今在家町221-1, 222-1	2,518	31.00	私	試掘			
226	今在家町282	372	31.80	私	試掘			
227	北斎院町484	300		公	立会			
228	桜現町甲359	290	58.80	私	試掘			
229	今在家町298-1他2筆	2,329	30.75	私	未			
230	南久米町665-41	81	40.80	私	試掘			
231	南江戸5丁目1429-5, -7	383	13.20	私	試掘			
232	谷町甲221-23	215	12.80	私	試掘			

平成6年度 松山市埋蔵文化財本格調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査目的	時代
266	大峰ヶ台遺跡9次調査地	南江戸5・6丁目	緊急	古墳
267	北梅本憑社谷遺跡	北梅本町甲695外	緊急	古墳～古代
268	経石山古墳2次調査地	桑原4丁目410-3	国補	弥生～中世
269	南久木斎院遺跡2次調査地	南久木町631-1	国補	弥生～古代
270	太山寺経田遺跡2次調査地	太山寺町乙677-1外	緊急	弥生～中世
271	来住庵寺23次調査地	来住町856-17	国補	弥生～古代
272	来住町遺跡5次調査地	来住町517-1, 524-2	国補	弥生～古代
273	古原遺跡11次調査地	南江戸4丁目1-1	緊急	中世
274	来住庵寺24次調査地	来住町819	学術	弥生～中世
275	枝松遺跡5次調査地	枝松4丁目242-1, 2	緊急	弥生～近世
276	筋邊J遺跡	福音寺町527-1	緊急	古墳～近現代
277	姫原遺跡	姫原2丁目甲276-1	国補	弥生～中世
278	久米高畠遺跡23次調査地	南久米町723-1(一部)	緊急	弥生～近世
279	桧山峯7号墳	平井町乙32-2, 9-2	緊急	古墳
280	鷹子新畠遺跡3次調査地	鷹子町650-1	緊急	弥生～中世

主な遺構、遺物等	対象面積(m ²)	屋外調査期間	No
	44,010	H 6. 4. 1 ~ 調査中	266
旧地形、須恵器	800	H 6. 5. 30 ~ H 6. 6. 30	267
溝、土坑、柱穴、弥生、土師、須恵	343	H 6. 5. 17 ~ H 6. 6. 2	268
整穴住居址、掘立柱建物跡、土坑墓、弥生、土師	600	H 6. 6. 20 ~ H 6. 7. 22	269
土坑、集石遺構、溝、縄文、弥生、須恵	2,190	H 6. 9. 5 ~ H 6. 12. 26	270
竪穴式住居址、掘立柱建物跡、回廊状遺構、弥生、須恵、土師	260	H 6. 7. 1 ~ H 6. 10. 31	271
掘立柱建物跡、自然流路、土坑、弥生、須恵	808	H 6. 8. 1 ~ H 6. 10. 31	272
圓跡状遺構、掘立柱建物跡、土坑、祭祀遺構、土師、渡米錢	750	H 6. 9. 1 ~ H 6. 11. 22	273
竪穴式住居址、掘立柱建物跡、井戸、木棺墓、土師、瓦	800	H 6. 11. 1 ~ H 7. 3. 20	274
竪穴式住居址、周溝、井戸、弥生、土師	547	H 6. 11. 22 ~ H 7. 1. 19	275
掘立柱建物跡、土坑、溝、柱穴、土師、須恵、陶器、瓦	939	H 7. 1. 5 ~ H 7. 3. 12	276
周溝、溝、柱穴、弥生、須恵、獸骨、管玉	1,684	H 7. 1. 5 ~ H 7. 2. 27	277
人溝、竪穴式住居址、掘立柱建物跡、土坑、弥生、石器	958	H 7. 1. 17 ~ H 7. 3. 15	278
	283	H 7. 2. 1 ~ 調査中	279
井戸、柱穴、弥生、土師	983	H 7. 3. 20 ~ H 7. 3. 24	280

平成6年度 松山市埋蔵文化財本格調査位置図



平成 6 年度
啓蒙普及事業

平成6年度の啓蒙普及事業

当埋蔵文化財センターは、松山市内における埋蔵文化財の発掘調査・研究をするとともに、出土遺物や記録した資料などを収集し、保存している。発掘調査終了後は遺跡の発掘調査報告書を作成し、隨時現地説明会などを開催し、広く一般に公開している。

また附属の考古館は、展示会や小学生対象の体験学習セミナー、一般向けの遺跡めぐり、講演会を開催するなど、市民一人ひとりの生涯学習を援助しながら、埋蔵文化財保護思想の啓蒙普及に努めている。

1. 展示活動

常設展は、「海を媒体とした文化交流の中継地点としての伊予文化の独自性と、そこに生きた人々の姿」を解明することを基本コンセプトとしており、「見る」「聞く」といった静的な展示だけではなく、「触れる」「考える」という動的で、かつ立体的な展示を心がけている。展示品は、松山平野で出土した考古資料約8,200点である。

その他、随時特別展・企画展・発掘速報展などを開催することにより、常設展を補完したり、また最新の発掘調査成果を導入することを目的としている。

①発掘速報展

発掘速報展「むかし・昔のまつやまを握る」は、松山市内で相次いで発見される重要な遺跡・遺物を速報的に紹介したり、また新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡について、写真やイラストを交えながら紹介するものである。

平成6年度は前年度に発掘調査された遺跡のなかで、松山大学構内遺跡3次調査を含む6遺跡を取り上げ、その出土遺物58点を展示了。



写真1 発掘速報展「むかし・昔のまつやまを握る」

②発掘写真展

発掘写真展「むかし・昔のまつやまを握る」は、広く一般市民に埋蔵文化財に目を向けてもらうため、松山市庁舎本館1階ロビーに場所を移し、前年度に発掘調査された遺跡や遺物の写真を展示するものである。

③夏休み体験学習セミナー作品展

夏休み体験学習セミナー作品展「小学生が作った！描いた！土器作品展」は、夏休み体験学習セミナーで小学校6年生47人が製作した土器や、描いた土器の絵を展示するものである。

④特別展

特別展は、ひとつのテーマのもとに県内外から資料を借用し、一定期間内で系統的に展示を行うものである。平成6年度は、近年めざましい発掘調査成果をあげている国指定史跡米住庵寺跡周辺の久米高知遺跡や回廊状遺構などをテーマにとりあげ、「古代の役所～回廊状遺構と久米評衡の展開について～」と題して開催した。

⑤企画展

企画展は、地域を限定して松山市内における地域色を探ろうというものである。平成6年度は当埋蔵文化財センターが平成元年の開館以来5周年を迎えたため、「よみがえる古代の松山～埋蔵文化財センター・考古館 5年のあゆみ～」と題して、5年間に発掘調査された主な11遺跡で出土した遺物106点を展示了。

また、この企画展で展示了した写真パネルを松山市庁舎本館1階ロビーに場所を移し、移動写真展「よみがえる古代の松山」を開催した。

テ　ー　マ	会　期	会　場	入館者数
発掘速報展 「むかし・昔のまつやまを語る」	平成6年4月23日(土) ～5月29日(日)	特別展示室	3,808人
発掘写真展 「むかし・昔のまつやまを語る」	平成6年6月8日(水) ～6月30日(木)	市庁舎本館 1Fロビー	——
夏休み体験学習セミナー作品展 「小学生が作った！描いた！土器作品展」	平成6年8月13日(土) ～8月28日(日)	特別展示室	451人
特別展 「古代の役所～淡路城と久米評書の風流について～」	平成6年10月22日(土) ～11月27日(日)	特別展示室	2,504人
企画展 「よみがえる古代の松山 ～埋蔵文化財センター・考古館 5年のあゆみ～」	平成7年2月18日(土) ～3月21日(日)	特別展示室	2,183人
移動写真展 「よみがえる古代の松山」	平成7年3月23日(水) ～4月7日(日)	市庁舎本館 1Fロビー	——

2. 教育普及活動

教育普及活動としては、職員の資質向上などを目的とした調査研究会と、一般市民を対象にした埋蔵文化財保護思想の啓蒙を目的とした講演会・夏休み体験学習セミナーなどがある。

①調査研究会

発掘現場における調査方法や報告書作成のために各分野での第一人者を招へいし、助言を頂き、職員の資質の向上を目指している。平成6年度は下記の研究者に招へいの機会を得て、ご指導をお願いした。(敬称略)

テ　ー　マ	日　時	会　場	講　師
北部九州の陶磁器編年	平成7年3月16日(水)	講堂	太宰府市教育委員会 山本 信夫

②講演会・シンポジウム

平成6年度は、発掘調査報告会・開館5周年記念講演会・特別展記念シンポジウムを開催した。発掘調査報告会「むかし・昔のまつやまを語る」は、前述の発掘速報展開催期間中に2名の発掘担当者によって、前年度に発掘調査された遺跡の概要報告と辻町遺跡2次調査の概要報告が行われた。

次に開館5周年記念講演会として、東洋の梵鐘の権威者であるソウル大学校工科大学名誉教授の嶩永夏先生に、梵鐘の製作技術からみた日本・韓国の文化交流についてご講演をお願いした。

また、前述の特別展開催を記念してシンポジウムを開催した。特に久米官衙遺跡群における現況と諸問題、全国の官衙関連遺跡についての発表など、諸先生方に多方面からの探求をお願いした。

(敬称略)



写真2 開館5周年記念講演会



写真3 特別展記念シンポジウム

テー マ	日 時	会 場	講 師	聴講者数	
発掘調査報告会 「むかし・昔のまつやまと語る」	平成6年4月23日㈯	講堂	魚センター調査係長 魚センター調査員	田城 武志 相原 浩二	188人
開館5周年記念講演会 「東アジアの初拓文庫の製作と文化」	平成6年5月12日㈰	講堂	ソウル大学校工科大学名譽教授 廉 永夏	120人	
特別展記念シンポジウム 「古代の役所」	平成6年10月23日㈰	講堂	コーディネーター／愛媛大学教授 下條 信行 パネラー／ 奈良県立文化財研究会総括文化財センター 集落遺跡研究室長 山中 敏史 東北國立文化財研究所総括文化財研究室主任 主任研究官 松本 修自 佐賀大学教授 日野 尚志 西南学院大学教授 長 洋一 愛媛大学教授 松原 弘宣 当センター学芸係長 西尾 幸則 当センター調査員 橋本 雄一	240人	

③夏休み体験学習セミナー

第4回目を迎えた夏休み体験学習セミナーは、土器成形（7月23日）と土器焼成及び写生（8月6日）の2回開講した。テーマは「土器を作ろう！土器を描こう！」で、子供たちに土器の製作などを通して、古代人の知恵や苦労を学ぼうというものである。また、社会学習の一助とするだけではなく、自主性と創造力を養うことをねらいとしている。

対象は、松山市内の小学校6年生47人で、夏休み期間中を利用して参加しているため、夏休みの自由研究のテーマにあてた参加者もいた。



写真4 夏休み体験学習セミナー
「土器を作ろう！土器を描こう！」(土器製作)



写真5 同左（土器焼成）

④遺跡めぐり

遺跡めぐりは、地域に所在する埋蔵文化財を参加者に身近に感じていただくことを目的として、毎年行っている。6年度は、春季に「むかし・昔のまつやまを歩く」と題して松山市内に残存する古墳を中心に、次いで秋季に「むかし・昔のえひめを歩く」と題して、愛媛県南予地域の古墳を中心に見学を行った。

テ　ー　マ	日　時	主な見学先	参加者数
遺跡めぐり 「むかし・昔のまつやまを歩く」	平成6年5月19日(火)	松山市経石山古墳・棄佐池古墳・波賓部神社古墳・来住庵寺跡	48人
遺跡めぐり 「むかし・昔のえひめを歩く」	平成6年11月25日(日)	宇和町小森古墳・愛媛県歴史文化博物館	42人

⑤現地説明会

平成6年度は、合計4回の現地説明会を開催した。注目を浴びた遺跡が多く、それに伴って発掘調査終了時ににおける現地説明会には、数多くの見学者が訪れた。こうした傾向は全国的にみられ、埋蔵文化財に対する関心の大きさを物語っている。

遺　跡　名	日　時	内　容	見学者数
東本遺跡4次調査	平成6年7月25日(土)	弥生時代から中世までの集落関係の遺跡。弥生後期の竪穴式住居など。	50人
来住庵寺23次調査・ 来住町遺跡5次調査	平成6年10月15日(日)	回廊状構造の西回廊部分。建て替えを示す柱穴列や区画溝など。	130人
姫原遺跡	平成7年2月18日(日)	弥生時代の周溝状遺構、7～8世紀の溝状構造や柱穴群など。	50人
来住庵寺24次調査・ 久米高畠遺跡23次調査	平成7年2月18日(日)	(来住庵寺24次調査) 中世の獨立柱建物、井戸、区画溝など。 (久米高畠遺跡23次調査) 弥生時代前期末～中期の人溝、古墳時代後期の獨立柱建物など。	180人

⑥まいぶん映画会

まいぶん映画会は、一般観覧者を対象として、毎週日曜日及び祝祭日の午後1時と3時の2回上映している。上映するビデオは、考古学関係のわかりやすいアニメーションから専門的なものまで幅広く揃えている。

またエントランスホールの一角では、平日でも常時ビデオが観賞できるよう、6月より「ビデオ放映室」を開設した。

3. 収集・保管活動

開館以来、一般の篤志家から考古資料及び関連の資料の寄贈・寄託を受けている。それらの中から考古資料については、一定期間、常設展示室の一角で順次展示している。ただし、他機関などから寄贈された一般図書は割愛した。

寄贈資料名	点数	出　土　地	備　考
石　片（黒曜石） 古　銭	1 10	松山市南江戸3丁目	友澤隆俊氏寄贈

4. 広報・出版活動

当館では、前述の展示会・講演会などを開催する際に、多くの観覧者を募るために出版物を発行したり、発掘調査が終了した遺跡の記録保存の報告として、発掘調査報告書を刊行している。研究者はもとより、一般市民においても、これらの出版物を大いに活用していただくことで、埋蔵文化財保護の啓蒙普及に役立つものと思われる。

なお、これらの刊行物の一部は、既に当館のエントランスホールの一角で開架しており、観覧者の利用に供している。

①発掘調査報告書

報告書名	発行日	対象	版型・頁	部数
松山市文化財調査報告書42 北久米淨蓮寺遺跡－3次調査地－	平成6年6月	一般	B5 本文 158頁 写真図版 37頁	1,000
松山市文化財調査報告書43 斎院の遺跡	平成6年8月	一般	B5 本文 130頁 写真図版 36頁	1,000
松山市文化財調査報告書44 来住・久米地区の遺跡 II	平成6年10月	一般	B5 本文 186頁 写真図版 46頁	1,000
松山市文化財調査報告書45 右井坊根岡遺跡・南中学校構内遺跡－第2次調査－	平成6年8月	一般	B5 本文 56頁 写真図版 26頁	1,000
松山市文化財調査報告書46 桑原地区の遺跡 II	平成6年11月	一般	B5 本文 223頁 写真図版 91頁	1,000
集佐池古墳 一本棺が残された横穴式石室の調査－	平成6年11月	一般	A4 本文 21頁 写真 31葉	3,000
松山市文化財調査報告書47 占照遺跡－第10・11次調査－	平成7年3月	一般	B5 本文 66頁 写真図版 31頁	1,000
松山市文化財調査報告書48 大峰ヶ台遺跡－第4次調査－	平成7年3月	一般	B5 本文 66頁 写真図版 22頁	1,000
松山市埋蔵文化財調査年報 VI (平成5年度)	平成6年9月	一般	B5 本文 96頁	1,000

②展示会関係出版物

出版物名	発行日	対象	版型・頁	部数
発掘巡回展 案内状	平成6年4月	一般	ハガキ	3,000
発掘巡回展 パンフレット		一般	B5・11頁	3,000
開館5周年記念講演会 レジメ	平成6年5月	聴講者	B4・8頁	150
遺跡めぐり(1) パンフレット	平成6年5月	参加者	B4・11頁	50
夏休み体験学習セミナー パンフレット	平成6年7月	参加者	B5・6頁	100
特別展 案内状		一般	ハガキ	3,000
特別展 ポスター	平成6年10月	一般	B2	500
特別展 リーフレット		一般	B5	5,000
特別展記念シンポジウム レジメ		聴講者	B4・29頁	300
来住庵寺と官衙遺跡群 パンフレット	平成6年10月	一般	A4・4頁	3,000
遺跡めぐり(2) パンフレット	平成6年11月	参加者	B4・13頁	50
企画展 案内状	平成7年2月	一般	ハガキ	3,000
企画展 パンフレット		一般	B5・8頁	3,000
松山市考古館PR用ポスター	平成7年3月	一般	B2	500

5. 施設の利用

当館では、主催事業だけではなく、考古学関連団体主催のシンポジウムや研究会の会場として利用してもらい、広く一般市民にも公開している。

①研究会

大 会 名	日 時	会 場	内 容
鉄器文化研究集会	平成7年1月28日(土) ・29日(日)	講堂	1. 井出 正利(島根大学) 「中国地方における豪勢貴族の実権」 2. 花田 義信(村山町教育委員会) 「古墳時代の豪勢・貴族生産 〈古墳を中心として〉」 3. 保木 駿先(毛見考古文化財研究所) 「豪勢貴族から見た古墳時代の金属器生産」 4. 村上 啓道(安佐大学) 「後半・古墳時代における扶桑生産の諸問題」

②瀬戸内海考古学研究会

テ 一 マ	日 時	会 場	講 師
「弥生石器から見た瀬戸内文化圏の形成」	平成6年4月17日(土)	講堂	愛媛大学法文学部教授 丁様 信行 調査員
「愛媛県における弥生中期の土器と社会」	平成6年5月28日(日)	講堂	鷲崎山市多留美西遺跡周辺考古文化財センター 調査員 梅木 勝一 助教 梅木 勝一 調査員 関田 兼元 調査員
「祭祀遺跡の構造と性格」	平成6年7月30日(日)	講堂	鷲崎山市生糸や神須野跡周辺考古文化財センター 調査員 椎原 透二 鷲崎山神須野考古文化財調査センター 調査員 香川 伸郎 調査員
「森松遺跡の水田跡」	平成6年9月17日(日)	講堂	鷲崎山神須野考古文化財調査センター 調査員 多田 仁 愛媛大学法文学部教授 田崎 博之 調査員
「最近調査の高麗半島の遺跡」	平成6年10月22日(日)	講堂	鷲崎山神須野考古文化財調査センター 調査員 塚尾 浩恭 調査員 鈴川 亮之 調査員
「松山平野の弥生石器 特に弥生時代後期を中心として」	平成6年11月26日(日)	講堂	鷲崎山市生糸や神須野跡周辺考古文化財センター 調査員 加藤 次郎 調査員
「鉄から見た伽耶と日本」	平成6年12月10日(日)	講堂	愛媛大学法文学部 教授 村上 勝道 助教
「回転台土師器の諸様相」	平成7年2月25日(日)	講堂	鷲崎山市生糸や神須野跡周辺考古文化財センター 調査員 関田 正秀 調査員
「燧灘南岸の中期弥生聚落に関する基礎的研究 その1」	平成7年3月25日(日)	講堂	鷲崎山神須野考古文化財調査センター 調査員 関田 兼元 調査員

6. 資料の貸出

当館では、全国の博物館や教育委員会の主催事業の出品要望に応えるべく、可能な限り当館所蔵資料の貸出を行っている。

貸出資料名（遺跡名）	点 数	貸出目的（展示期間）	貸 出 先
「砂」絵画土器（持株高木遺跡）	1点		
分彫形土器品（植味四反地遺跡） （道後號谷遺跡） （福音小学校構内遺跡） （文京遺跡）	1点 1点 2点 1点	企画展「描かれた弥生人のくらし」に出品するため (平成6年9月22日～ 平成6年11月22日)	徳島県立博物館
有柄式磨製石剣レプリカ（出井作剣田遺跡）	1点		
石錐 土錐（津田鳥越遺跡）	5点 5点		
平形銅削復元品（祝谷六丁場遺跡）	3点		
平形銅削（宇和町清洲遺跡）	1点		
弥生土器 瓢（東雲神社遺跡）	1点		
弥生土器 高环（末庄魔帝遺跡）	1点		
軒丸瓦・軒平瓦（末庄魔帝遺跡）	3点		
縄文土器 洋鉢 甕 石庵丁他（大瀬遺跡）	2点 1点 3点	秋季特別展「豊かなる海一瀬戸内と豊後」に出品するため (平成6年10月28日～ 平成6年11月27日)	大分市歴史資料館
分彫形土器品（祝谷六丁場遺跡） （祝谷アイリ遺跡）	2点 2点		
土師器 瓢 取手 網紋 一輪二軸鏡 説明パネル（朝日谷2号墳）	1枚 3枚 5枚 1点 1枚		
彫影木製品 船形木製品 丸木舟 石鏡 須恵器 高环 須恵器 肥手付壺 土師器 小窓（福音寺竹ノ下遺跡）	1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点		
須恵器 甕 土師器 取手 有孔円板（北久米津蓮寺遺跡3次調査）	1点 1点 2点		
土師器 甕（北久米家畠遺跡）	1点		
土師器 瓢 土師器 瓢 土師器 瓢 須恵器 瓢 須恵器 瓢 臼玉（江町遺跡1次調査）	3点 2点 1点 3点 3点 3点 19点	特別展「出作遺跡とそのマツリ－古墳時代松山平野の祭肥と政治－」に出品するため (平成6年11月20日～ 平成6年12月4日)	松前町教育委員会
土師器 小型丸底壺 土師器 瓢 有孔円板（松山大学構内遺跡2次調査）	1点 1点 1点		
子持ち勾玉 勾玉（福音小学校構内遺跡）	1点 1点		
須恵器 瓢（福音寺跡遺跡）	1点		
須恵器 瓢（東山古墳群）	1点		
子持ち勾玉（客谷1号墳）	1点		
須恵器 瓢（北久米津蓮寺遺跡） （崇院茶臼山古墳） （東山猪ヶ森6号墳） （松ヶ谷古墳）	1点 1点 2点 1点	「古代のふしぎな跡 松山平野の「はそう」展」に出品するため (平成7年1月6日～ 平成7年4月2日)	重信町教育委員会

7. 職員研修・会議など

当館職員は、奈良国立文化財研究所で実施されている発掘技術者研修をはじめとして、各種研修・行事に積極的に参加している。こうした研修などに積極的に参加することにより、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

研修・会議名	開催地	日程	参加者数
埋蔵文化財発掘技術者専門研修 「保存科学基礎課程」	奈良市	平成6年6月13日～6月28日	1名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会第15回総会	吹田市	平成6年6月16・17日	1名
埋蔵文化財写真技術者研究会	奈良市	平成6年7月1日～7月3日	1名
第1回四国埋蔵文化財法人実務担当者会	徳島市	平成6年7月14・15日	2名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	宇都宮市	平成6年10月6・7日	2名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	高知市	平成6年11月10・11日	3名
保存科学研究集会	奈良市	平成7年2月10日	1名

松山市考古館 月別入館者数調

平成6年度（平成6年4月1日～7年3月31日）

月	開館日数	一般	児童生徒	団体一般	団体児童生徒	老人	小中高生等 無料入館者	特別展等 無料入館者	入館者合計	一日平均 入館者
4	25	310	168	93	20	12	1,833	212	2,648	106
5	25	445	325	133	190	29	1,251	62	2,435	97
6	26	220	57	256	138	0	519	0	1,190	46
7	27	112	59	42	0	137	231	0	581	22
8	26	275	206	114	24	1	107	61	788	30
9	24	141	91	119	0	290	123	0	764	32
10	26	337	99	377	102	89	553	0	1,557	60
11	24	453	139	467	267	124	96	0	1,546	64
12	23	118	45	49	9	0	70	0	291	13
1	21	125	31	1	0	1	171	0	329	16
2	24	210	30	30	0	9	41	92	412	17
3	26	279	106	74	100	59	1,260	163	2,041	79
計	297	3,025	1,356	1,755	850	751	6,255	590	14,582	49

松山市埋蔵文化財調査年報 VII

平成7年9月30日 発行

編集 松山市教育委員会
発行 〒790 松山市二番町4丁目7-2
TEL (0899) 48-6605

財団法人 松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター
〒791 松山市南斎院町乙67番地6
TEL (0899) 23-6363

印刷 国田印刷株式会社
〒790 松山市湊町7丁目1-8
TEL (0899) 41-9111

